

館山自動車道
大鳥居高架橋耐震補強工事

設 計 図

【笹子橋】

令和8年9月

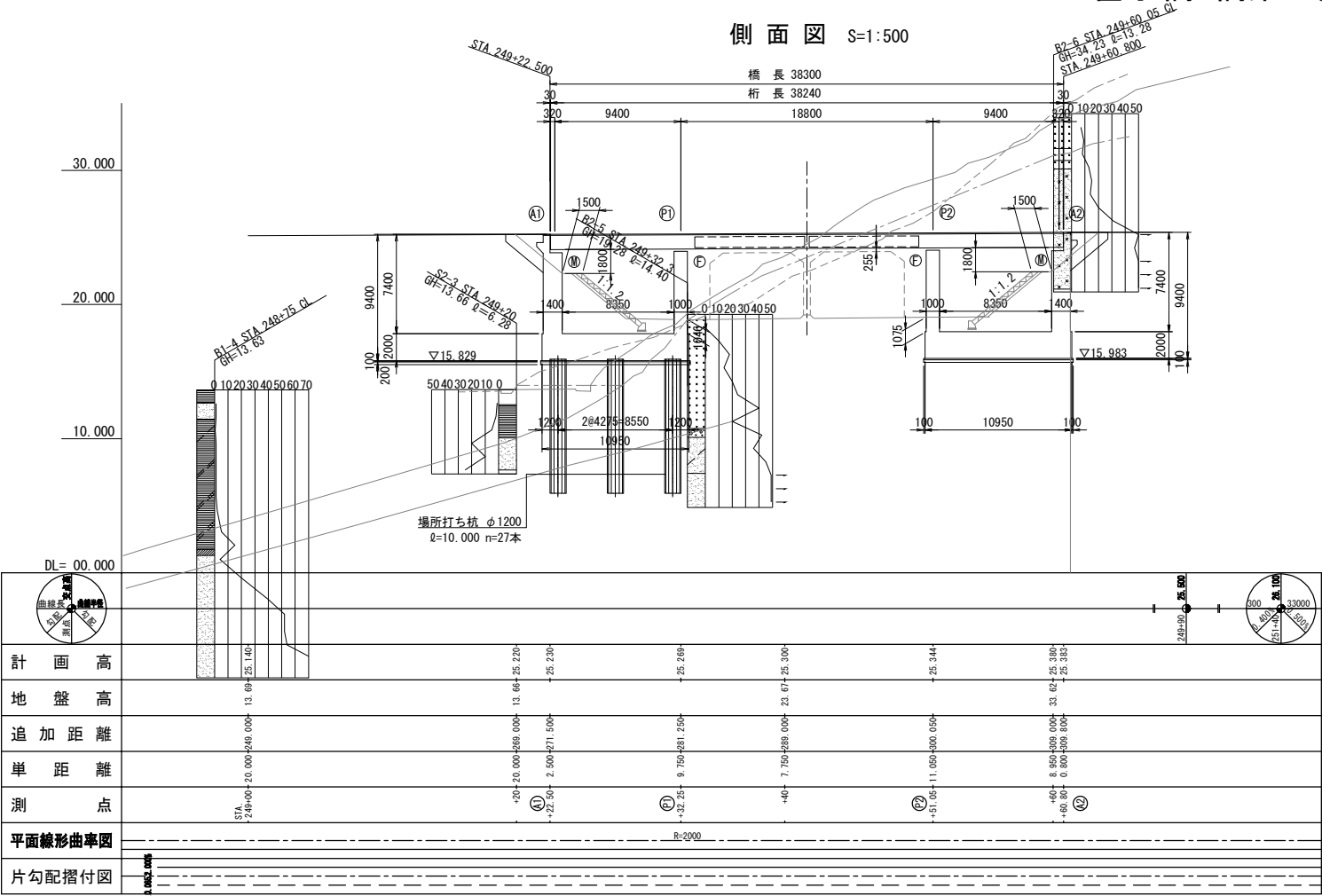
東日本高速道路株式会社
関東支社市原管理事務所

図 面 目 次

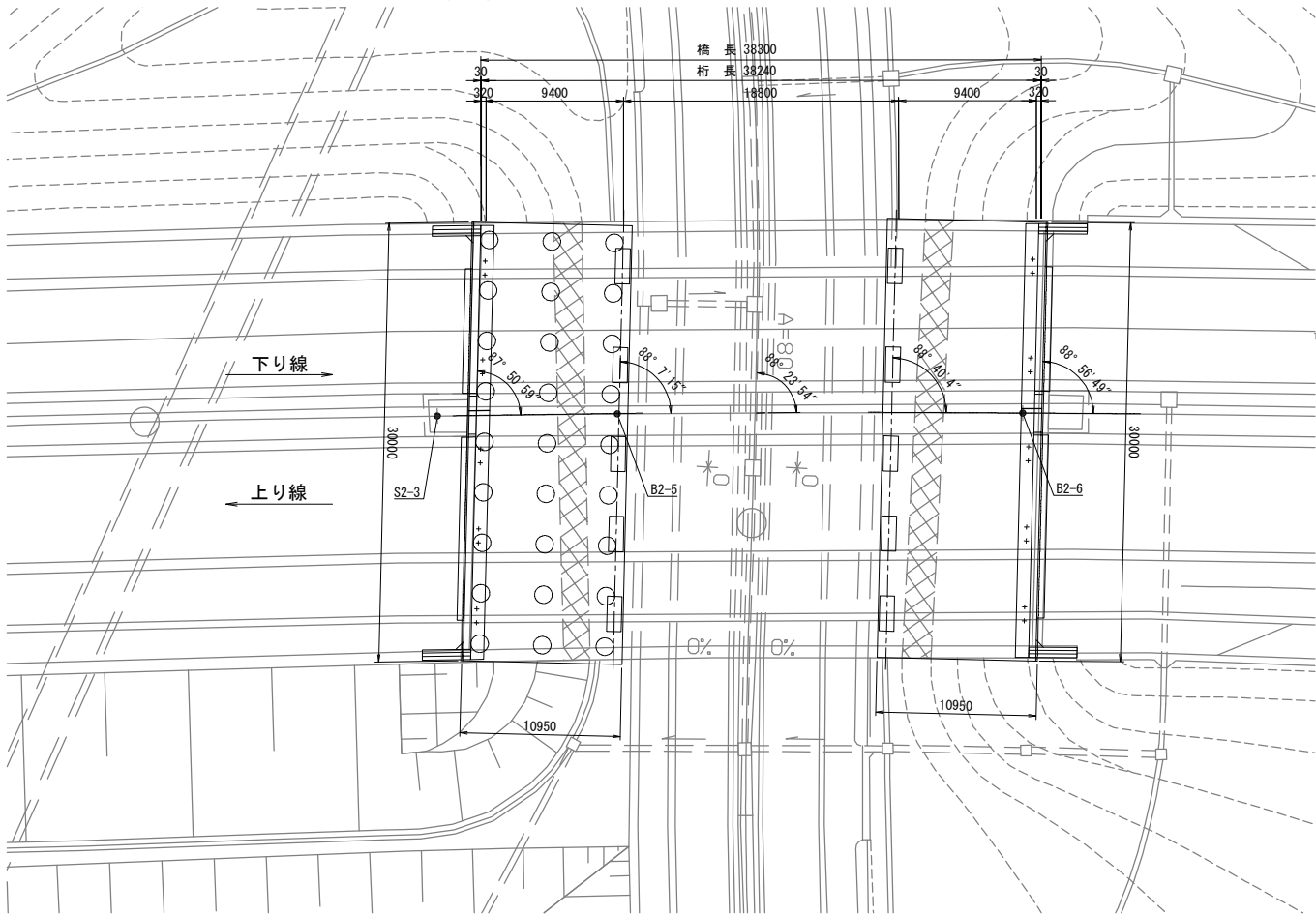
図 面 名	図 番
1 . 笹子橋 橋梁一般図	 1
2 . 笹子橋 (上り線) 耐震補強一般図	 2
3 . 笹子橋 (上り線) A1橋台 落橋防止構造 C1(R) 構造図(その1~2)	 3 ~ 4
4 . 笹子橋 (上り線) A2橋台 落橋防止構造 C1(S) 構造図(その1~2)	 5 ~ 6
5 . 笹子橋 (上り線) 足場工図(参考図)	 7
6 . 笹子橋 (上り線) 施工概要図(参考図)	 8
7 . 笹子橋 (下り線) 耐震補強一般図	 9
8 . 笹子橋 (下り線) A1橋台 落橋防止構造 C1(T) 構造図(その1~2)	 10 ~ 11
9 . 笹子橋 (下り線) A2橋台 落橋防止構造 C1(U) 構造図(その1~2)	 12 ~ 13
10 . 笹子橋 (下り線) 足場工図(参考図)	 14
11 . 笹子橋 (下り線) 施工概要図(参考図)	 15
12 . 笹子橋 (上下線) 落橋防止資材搬入計画図(参考図)	 16
13 . 笹子橋 (上下線) 交通規制工 交通規制図(その1~5)	 17 ~ 21
14 . 笹子橋 (上下線) 仮設防護柵工D(その1~2)	 22 ~ 23

笹子橋 橋梁一般図

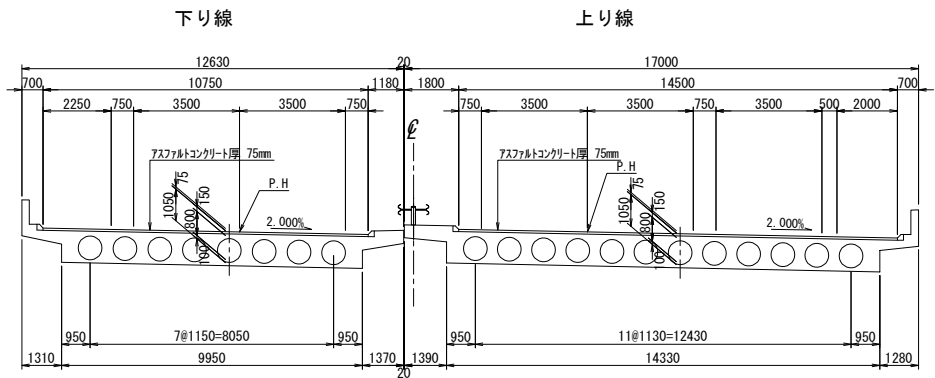
側面図 S=1:500



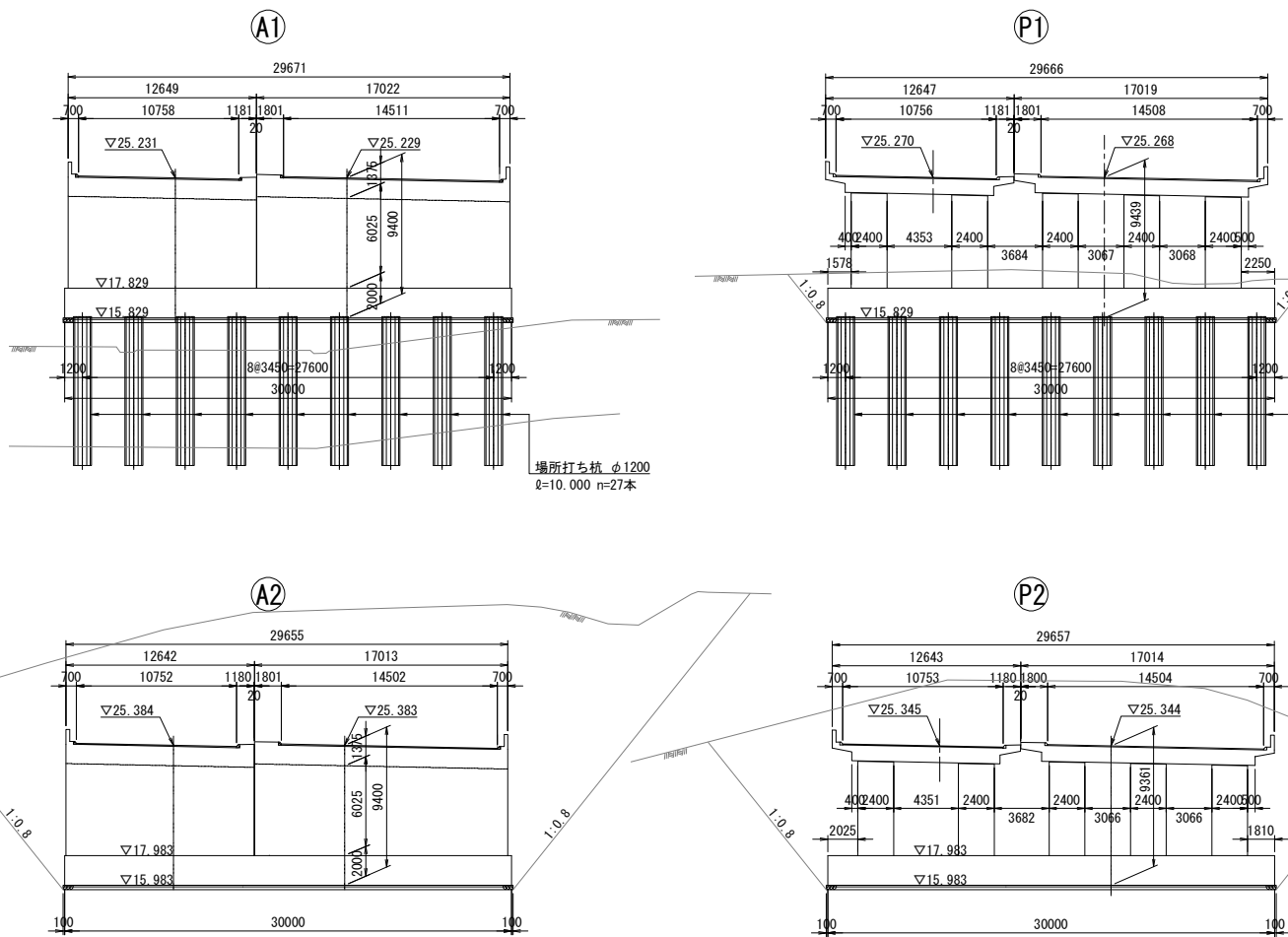
平面図 S=1:500



標準断面図 S=1:250



横断面図 S=1:500



笹子橋(上り線) 耐震補強一般図

側面図 S=1:500

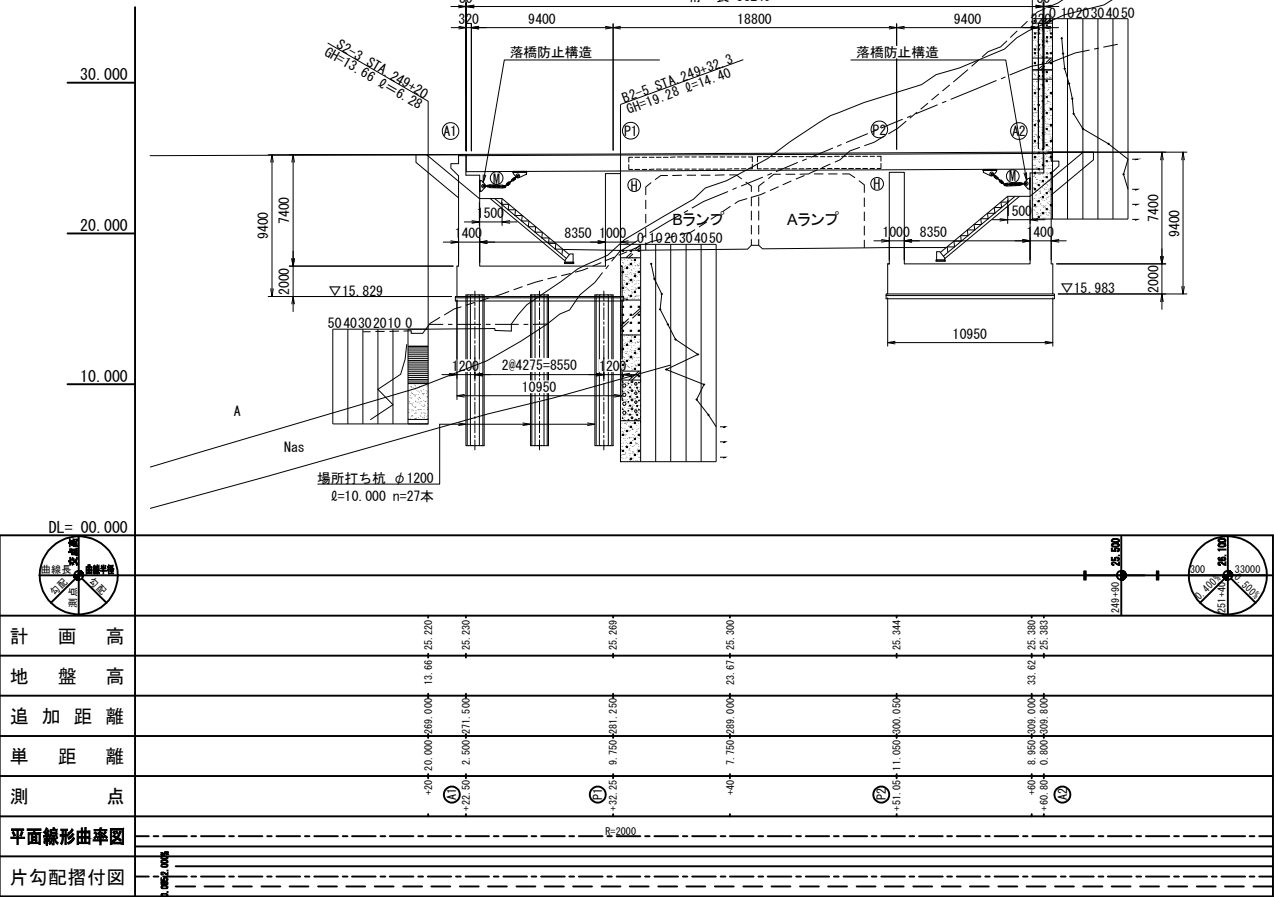
上部工標準断面図 S=1:250

建設時設計条件

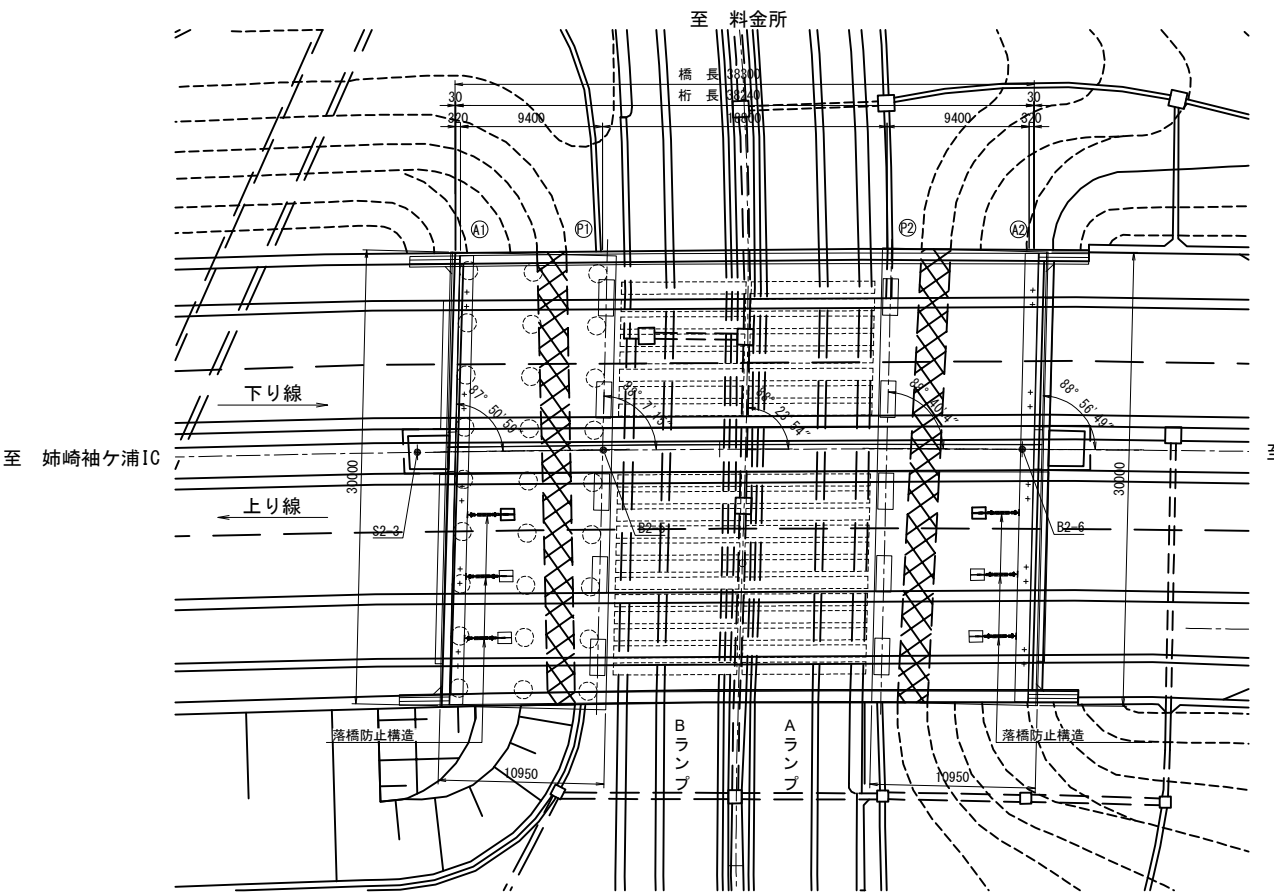
橋長	上り線	38.300m
	下り線	38.300m
支間長	上り線	9.400m + 18.800m + 9.400m
	下り線	9.400m + 18.800m + 9.400m
全幅員	上り線	17.000m
	下り線	12.630m
有効幅員	上り線	14.500m
	下り線	10.750m
上部工形式	上り線	RC3径間連続中空床版
	下り線	RC3径間連続中空床版
下部工形式	上り線	ラーメン式橋台2基、三柱式橋脚2基
	下り線	ラーメン式橋台2基、二柱式橋脚2基
支承形式	上り線	BP-A支承 (A1, A2), メナーゼヒンジ支承 (P1, P2)
	下り線	BP-A支承 (A1, A2), メナーゼヒンジ支承 (P1, P2)
活荷重	TL-20, TT-43	
完成年月日	1995年(平成7年)12月	
設計基準	S53道路橋示方書, S55道路橋示方書 設計要領第二集(日本道路公社)	
設計水平震度	kh=0.20	
使用材料	コンクリート	$\sigma_{ck}=240\text{kg/cm}^2$ (上部工及び下部工)
	鉄筋	SD35(上部工及び下部工)

今回耐震補強設計条件

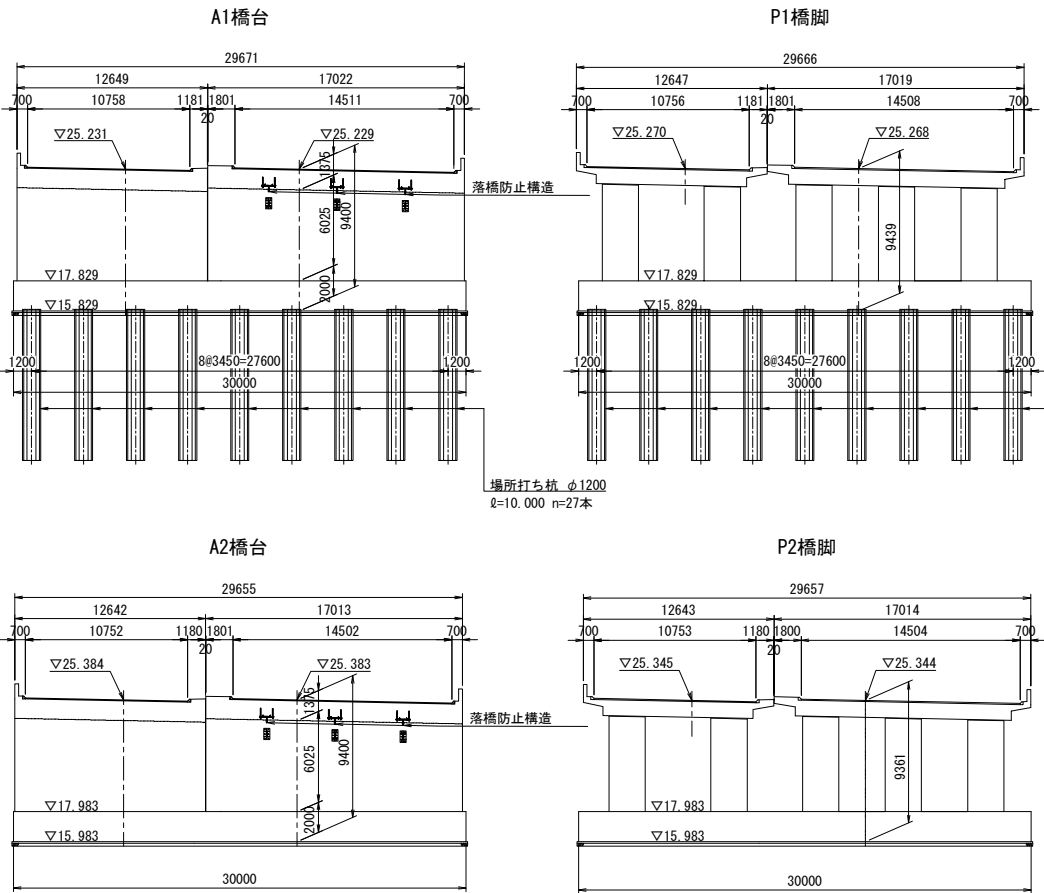
設計基準	R6設計要領 第二集 橋梁保全編 H24道路橋示方書・同解説 IV 下部構造編 H24道路橋示方書・同解説 V 耐震設計編	
使用材料	コンクリート	—
	鉄筋	—
補強内容	橋脚	—
	上部工	落橋防止構造: 緩衝機能付きチェーン



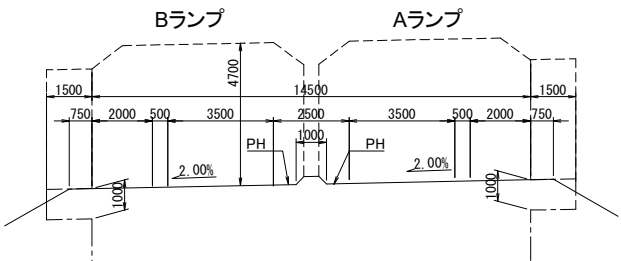
平面図 S=1:500



至 木更津JCT



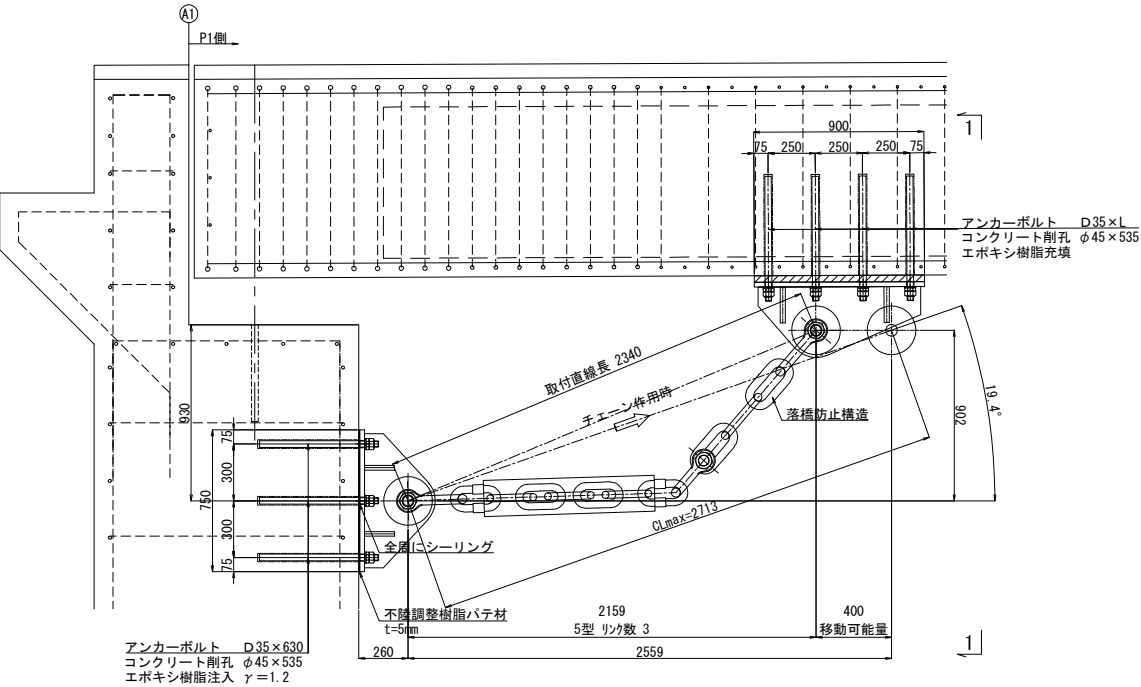
交差道路断面図 S=1:250



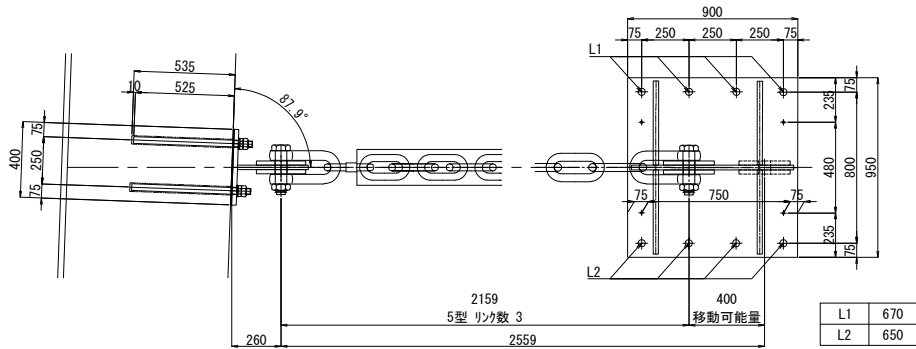
館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	笹子橋(上り線) 耐震補強一般図		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		

[配置図]

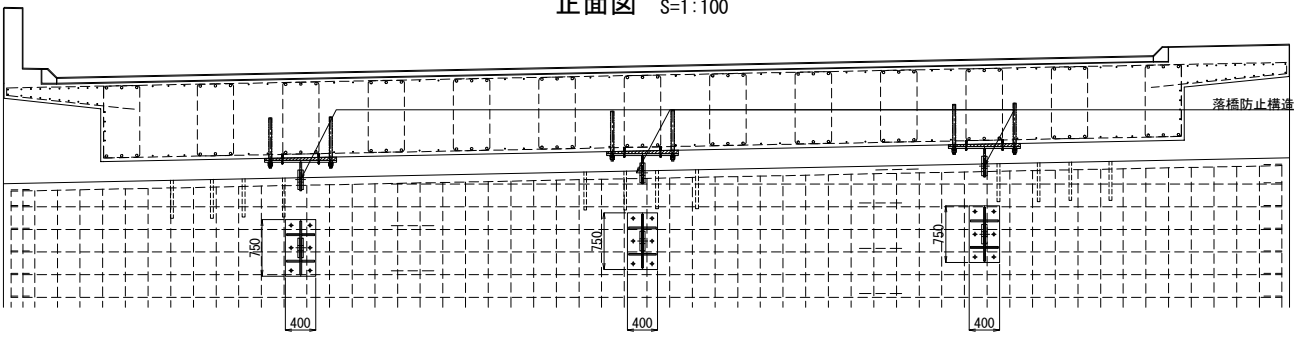
側面図 S=1:40



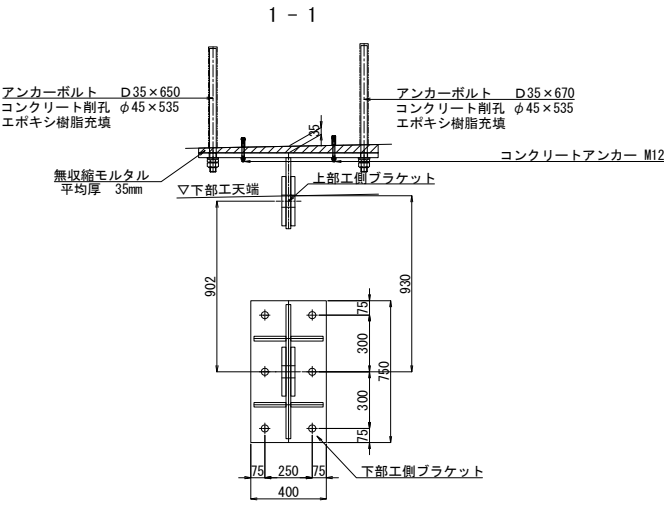
平面図 S=1:40



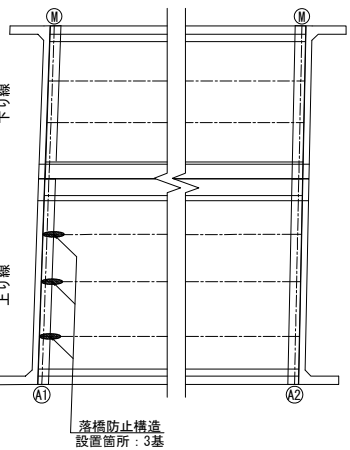
正面図 S=1:100



断面図 S=1:40



位置図

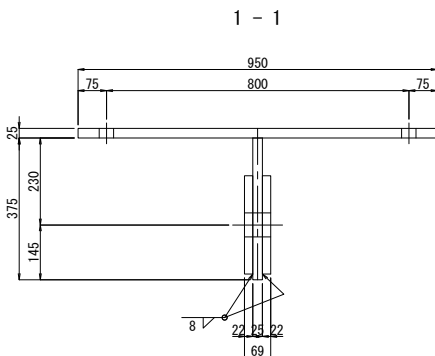
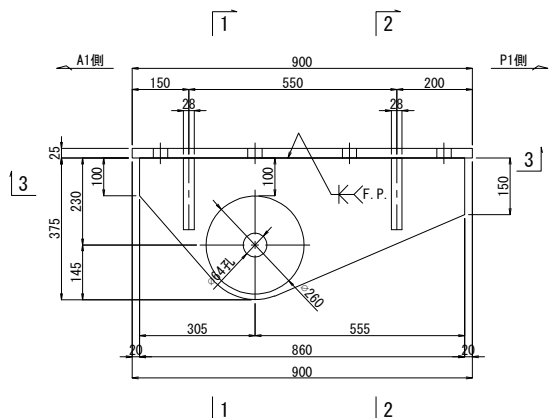


死荷重反力	1356kN
設計水平力	2034kN
1本当たりの設計地震力	678kN
1本当たりの設計引張力	719kN
設計移動量	400mm

- 注記)
- 図中詳細寸法は、足場架設後現地実測の上決定のこと。
 - 上下部工側は鉄筋探索等を行い、既設鉄筋を切断しないように留意すること。
 - 既設躯体の部材取付面は、下地処理を行うこと。
 - アンカーボルト定着長は既設躯体より150(D:アンカー径)以上を確保すること。
 - 無収縮モルタル及び樹脂パテ材の施工前にチッピングによる表面処理を行うこと。

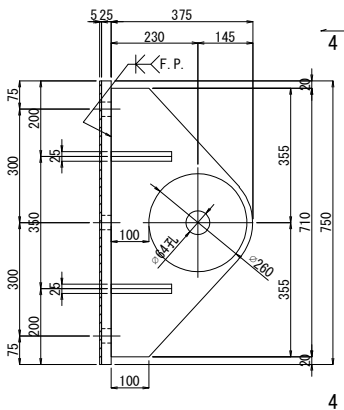
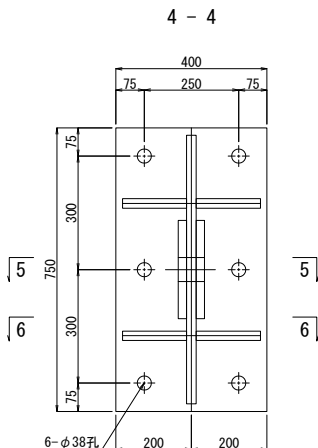
館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	笹子橋(上り線) A1橋台 落橋防止構造 C1(R) 構造図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

上部エブラケット詳細図 S=1:20

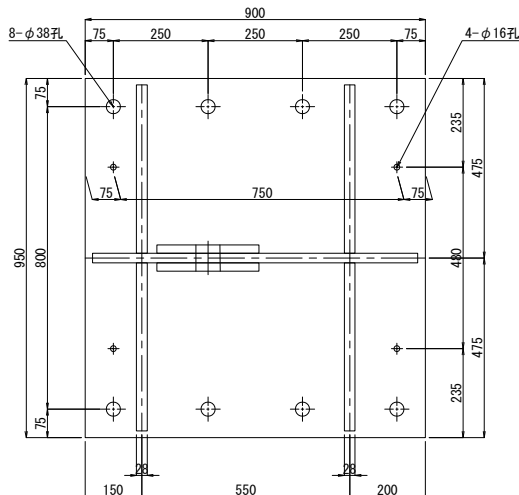


[取付概要図]

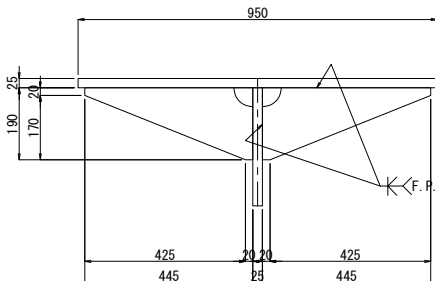
下部エブラケット詳細図 S=1:20



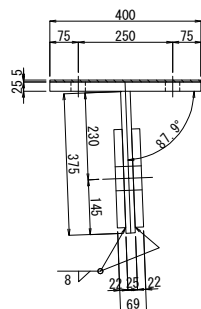
3 - 3



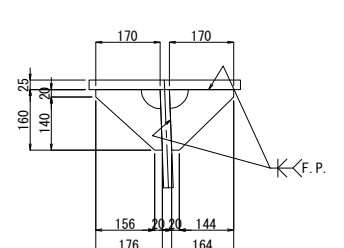
2 - 2



5 - 5



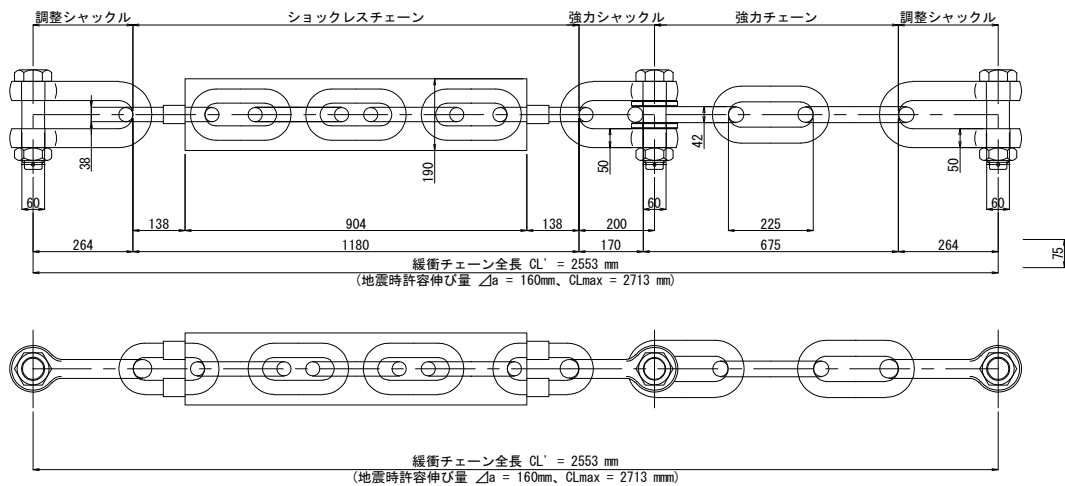
6 - 6



材料1基当り (全3基)
1-Base PL 950×25×900 (SM490A)
1-Top PL 375×25×860 (SM490A)
2-PL φ260×22 (SM490A)
4-Rib PL 190×28×445 (SM490B)
4-コンクリートアンカー M12 (SS400相当品, 仕様仕様)

材料1基当り (全3基)
1-Base PL 400×25×750 (SM490A)
1-Top PL 375×25×710 (SM490A)
2-PL φ260×22 (SM490A)
2-Rib PL 160×25×176 (SM490A)
2-Rib PL 160×25×170 (SM490A)

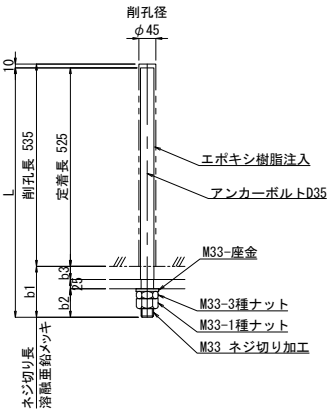
緩衝チェーン 5型 3リンク (参考図) S=1:20



材料表 (落橋防止構造1箇所当たり)

名称	規格	単位	数量	摘要
緩衝機能付きチェーン	825kN	本	1	SCM420H, SCM435又はSCM435H
ボルト	φ60	個	3	
ナット	M60	個	3	
座金	M60	枚	6	
割ピン	φ10	個	3	

上部アンカーボルト詳細図 S=1:20



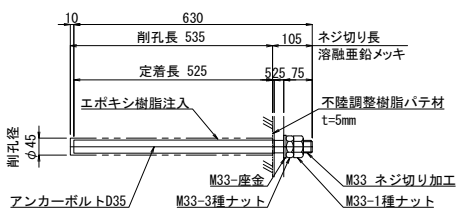
注: アンカーボルトはネジ切り部にのみ溶融亜鉛メッキを施す。

材料1基当り (全3基)

N-Anc Bolt D35×L (SD345)
8-Nut M33 1種ナット
8-Nut M33 3種ナット
8-Washer M33 座金

L	b1	b2	b3	N
670	145	77	43	4
650	125	73	27	4

下部アンカーボルト詳細図 S=1:20

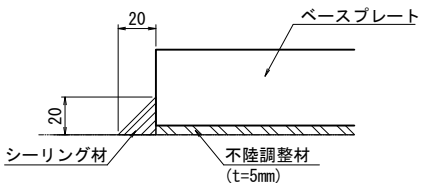


注: アンカーボルトはネジ切り部にのみ溶融亜鉛メッキを施す。

材料1基当り (全3基)

6-Anc Bolt D35×630 (SD345)
6-Nut M33 1種ナット
6-Nut M33 3種ナット
6-Washer M33 座金

シーリング詳細図 S=1:5

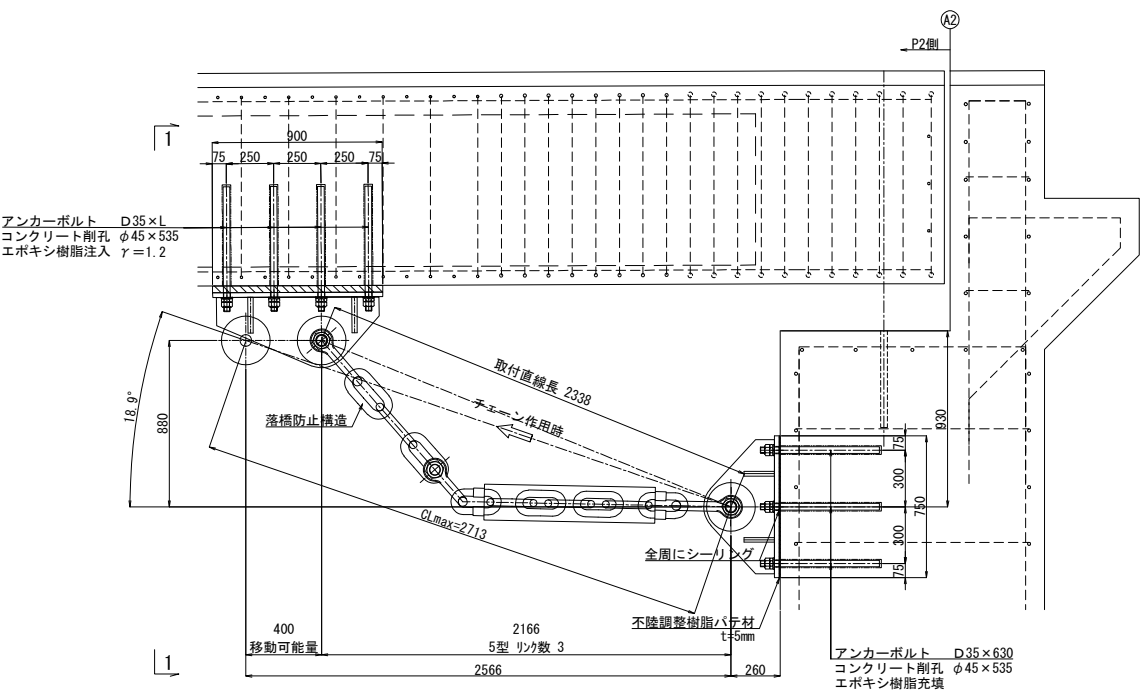


注記)
1. ブラケットの製作は、現地調査の上、最終決定のこと。
2. 特記なきスカーラップはR50とする。
3. 特記なき材質はSS400とする。
4. 上下部工側ブラケット及びアンカーボルトネジ切部を下記の通りの溶融亜鉛メッキとする。
HDZT77 銅板
HDZT49 アンカーボルト、ナット、ワッシャー
5. 「F.P.」の表記のある箇所は完全溶込み溶接を用いる。
6. 既設躯体の部材取付面は、下地処理を行うこと。

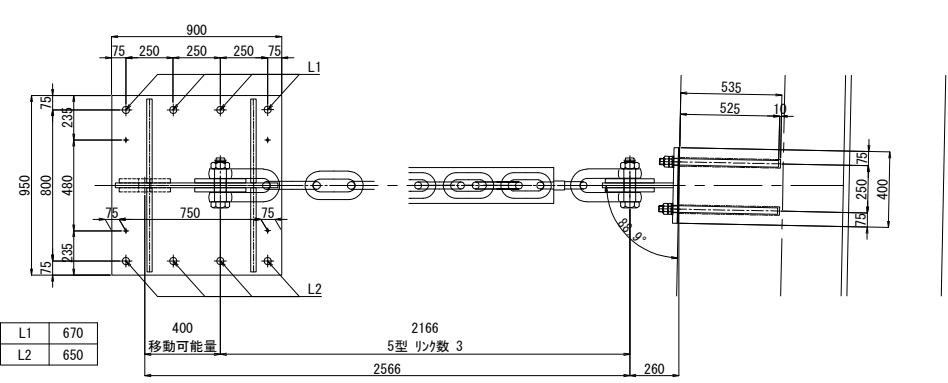
館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	笹子橋(上り線)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		

[配置図]

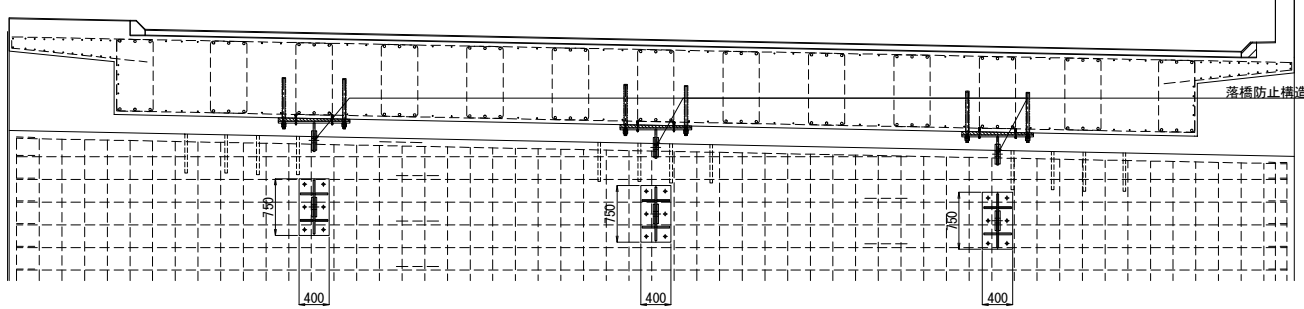
側面図 S=1:40



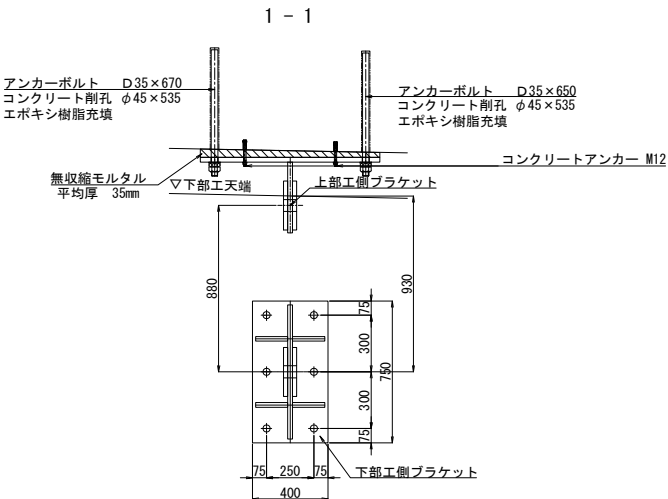
平面図 S=1:40



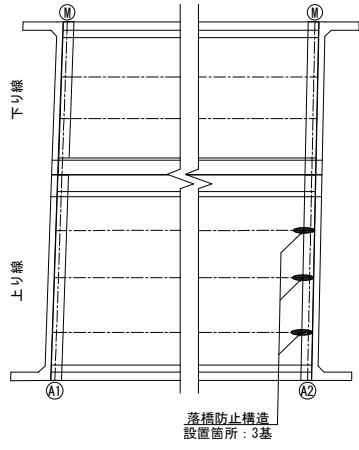
正面図 S=1:100



断面図 S=1:40



位置図



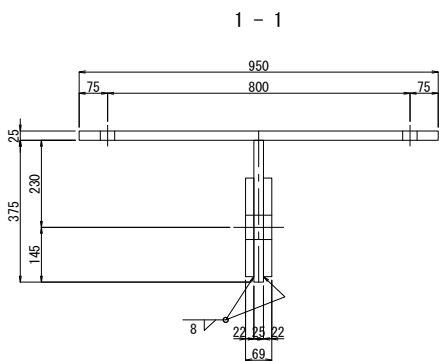
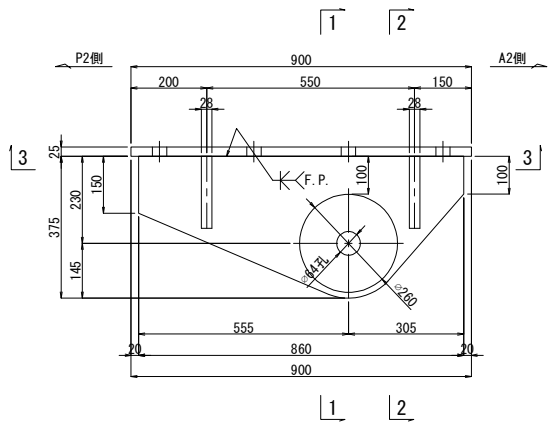
死荷重反力	1356kN
設計水平力	2034kN
1本当たりの設計地震力	678kN
1本当たりの設計引張力	717kN
設計移動量	400mm

- 注記)
- 図中詳細寸法は、足場架設後現地実測の上決定のこと。
 - 上下部工側は鉄筋探査等を行い、既設鉄筋を切断しないように留意すること。
 - 既設躯体の部材取付面は、下地処理を行うこと。
 - アンカーボルト定着長は既設躯体より150(D:アンカー径)以上を確保すること。
 - 無収縮モルタル及び樹脂パテ材の施工前にチッピングによる表面処理を行うこと。

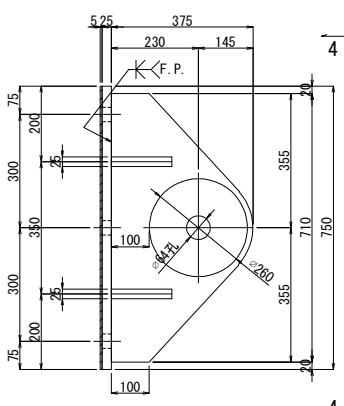
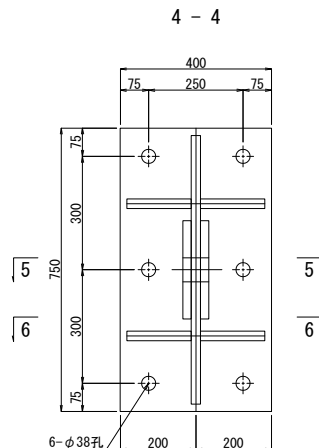
館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	笹子橋(上り線) A2橋台 落橋防止構造 C1(S) 構造図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

[取付概要図]

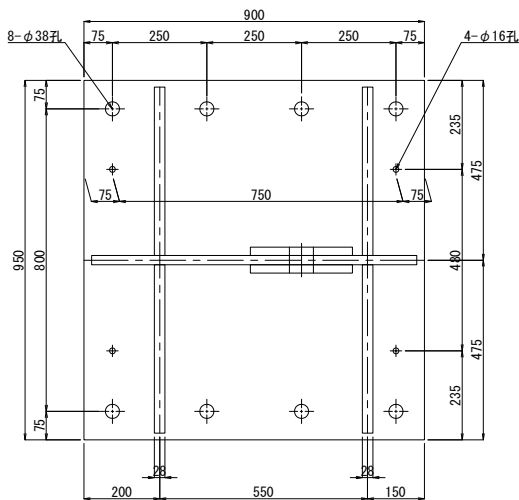
上部エブラケット詳細図 S=1:20



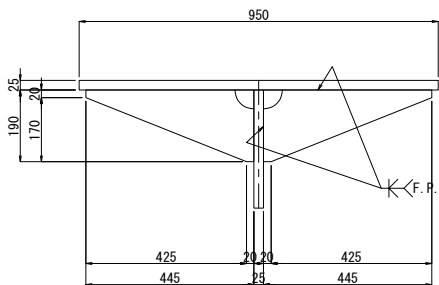
下部エブラケット詳細図 S=1:20



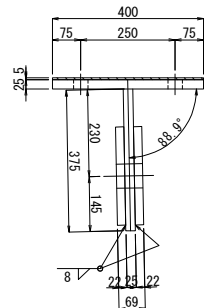
3 - 3



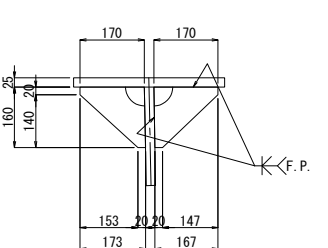
2 - 2



5 - 5



6 - 6



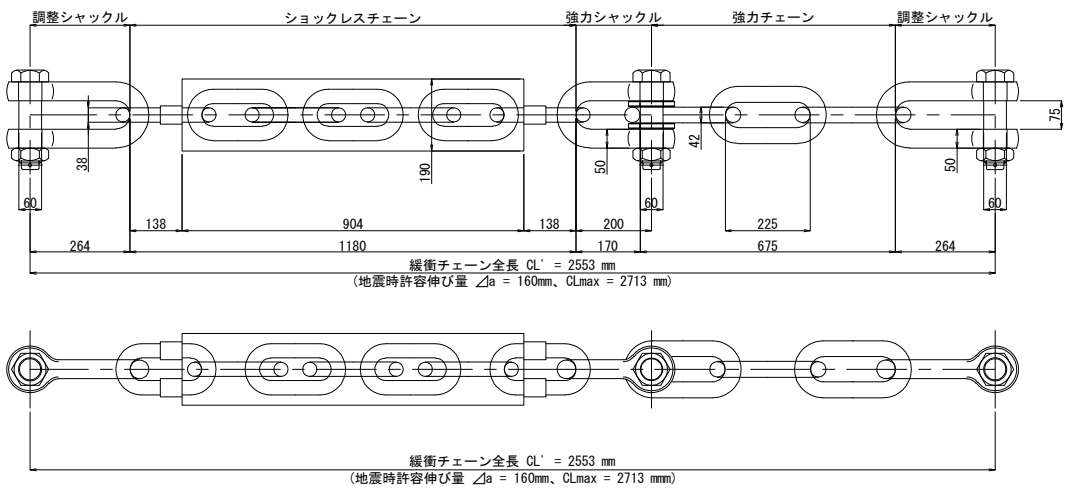
材料1基当り (全3基)

- 1-Base PL 950×25×900 (SM490A)
- 1-Top PL 375×25×860 (SM490A)
- 2-PL φ260×22 (SM490A)
- 4-Rib PL 190×28×445 (SM490B)
- 4-コンクリートアンカー M12 (SS400相当品, 仕様様)

材料1基当り (全3基)

- 1-Base PL 400×25×750 (SM490A)
- 1-Top PL 375×25×710 (SM490A)
- 2-PL φ260×22 (SM490A)
- 2-Rib PL 160×25×173 (SM490A)
- 2-Rib PL 160×25×170 (SM490A)

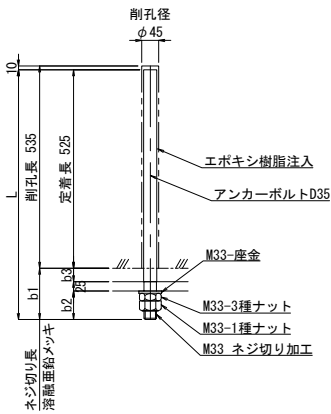
緩衝チェーン 5型 3リンク (参考図) S=1:20



材料表 (落橋防止構造1箇所当たり)

名称	規格	単位	数量	摘要
緩衝機能付きチェーン	825kN	本	1	SCM420H, SCM435又はSCM435H
ボルト	φ60	個	3	
ナット	M60	個	3	
座金	M60	枚	6	
割ピン	φ10	個	3	

上部アンカーボルト詳細図 S=1:20



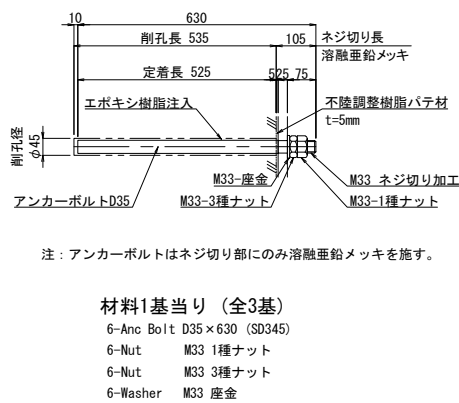
注：アンカーボルトはネジ切り部にのみ溶融亜鉛メッキを施す。

材料1基当り (全3基)

- N-Anc Bolt D35×L (SD345)
- 8-Nut M33 1種ナット
- 8-Nut M33 3種ナット
- 8-Washer M33 座金

L	b1	b2	b3	N
670	145	77	43	4
650	125	73	27	4

下部アンカーボルト詳細図 S=1:20

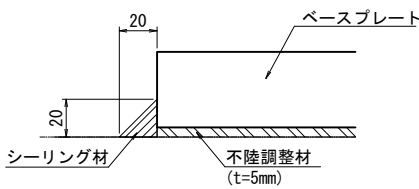


注：アンカーボルトはネジ切り部にのみ溶融亜鉛メッキを施す。

材料1基当り (全3基)

- 6-Anc Bolt D35×630 (SD345)
- 6-Nut M33 1種ナット
- 6-Nut M33 3種ナット
- 6-Washer M33 座金

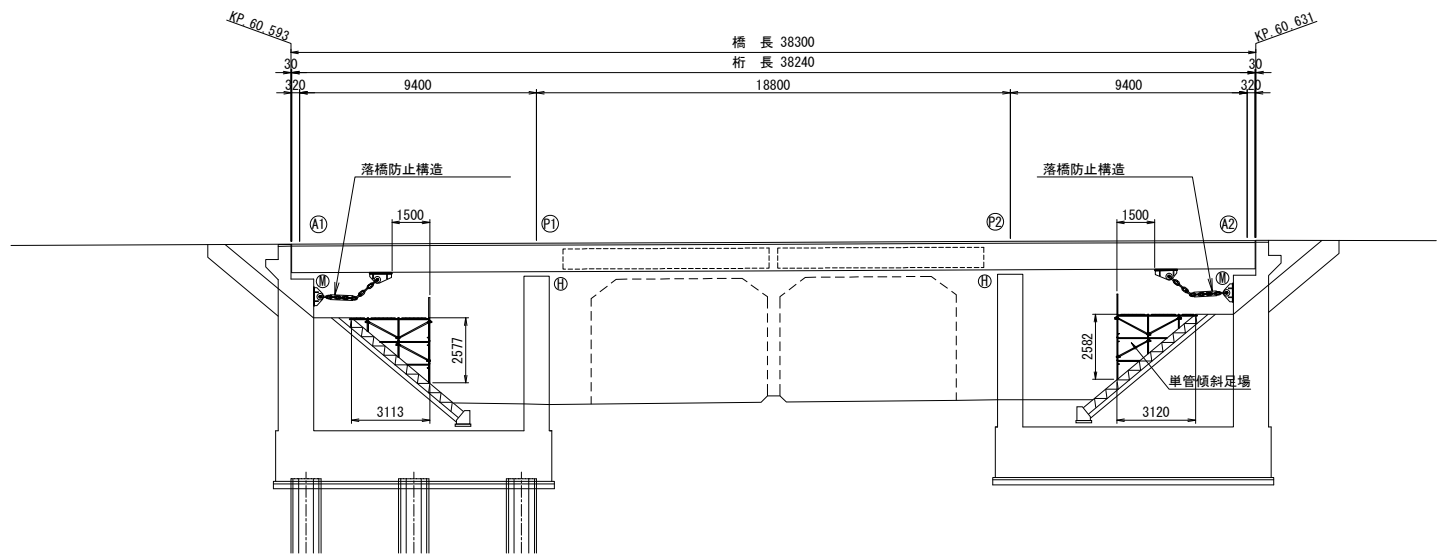
シーリング詳細図 S=1:5



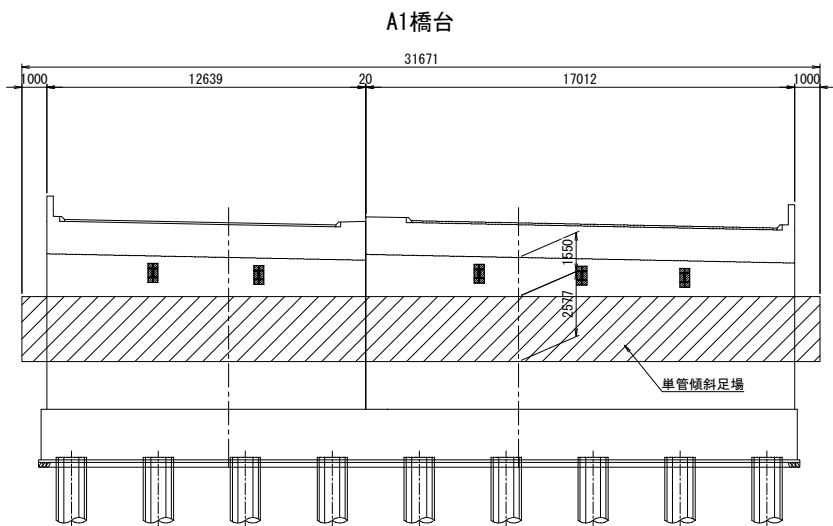
- 注記)
- ブラケットの製作は、現地調査の上、最終決定のこと。
 - 特記なきスカーラップはR50とする。
 - 特記なき材質はSS400とする。
 - 上下部工側ブラケット及びアンカーボルトネジ切部を下記の通りの溶融亜鉛メッキとする。
 - 「F.P.」の表記のある箇所は完全溶込み溶接を用いる。
 - 既設躯体の部材取付面は、下地処理を行うこと。

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	笹子橋(上り線) A2橋台 落橋防止構造 C1(S) 構造図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

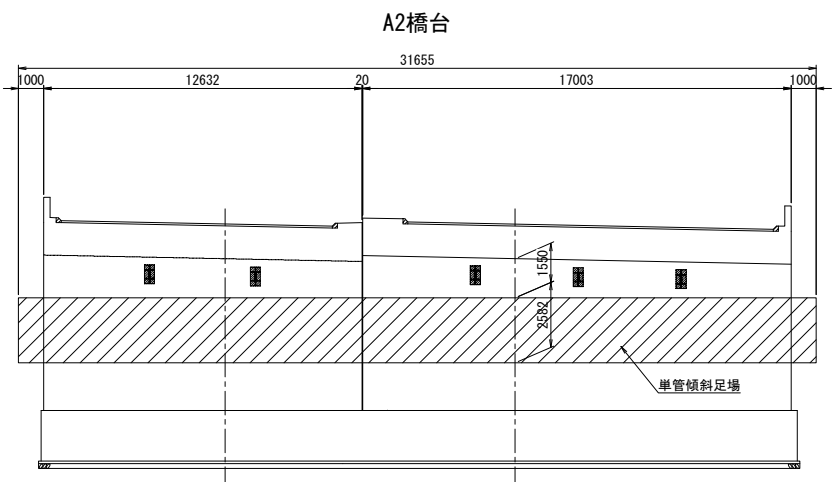
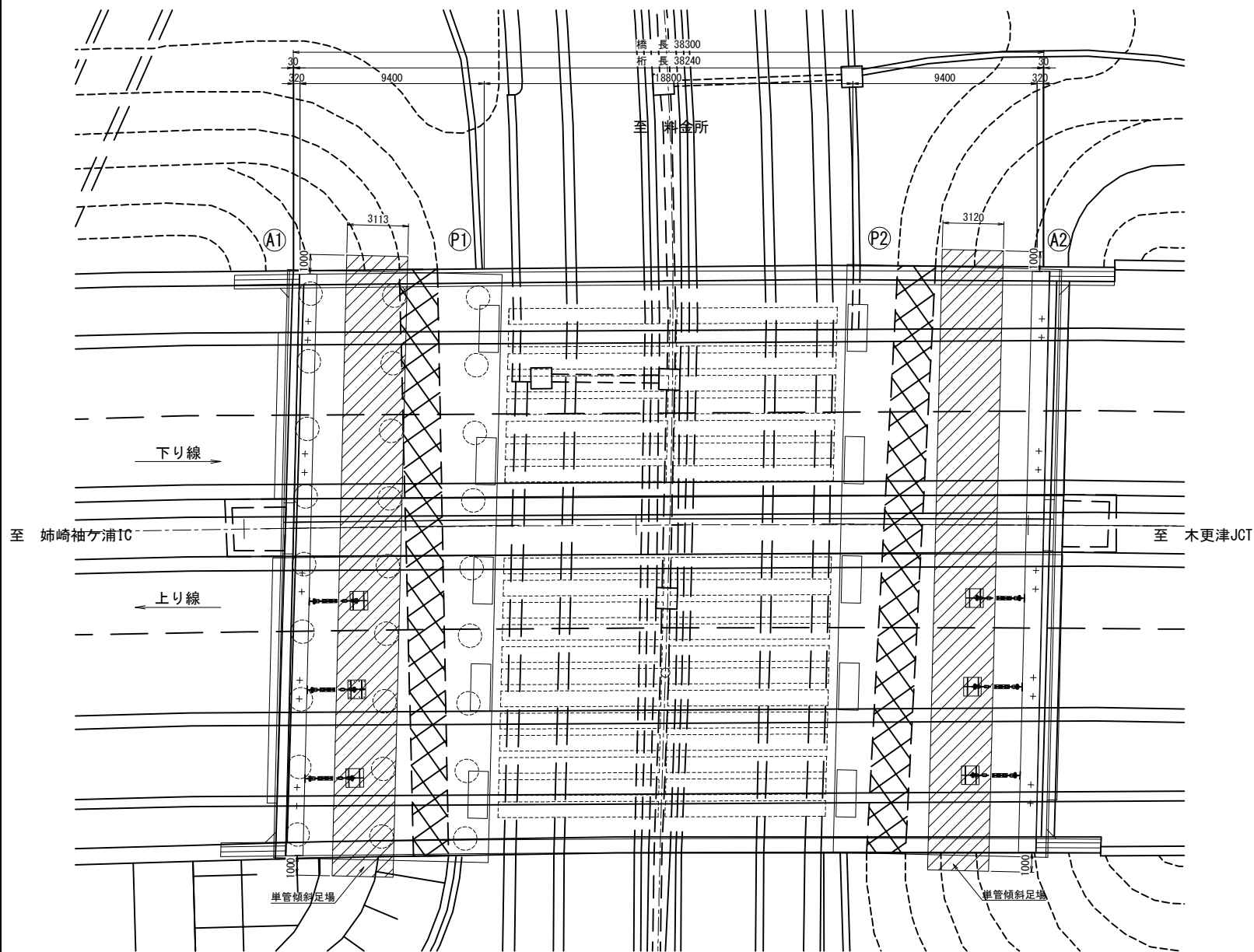
側面図



正面図



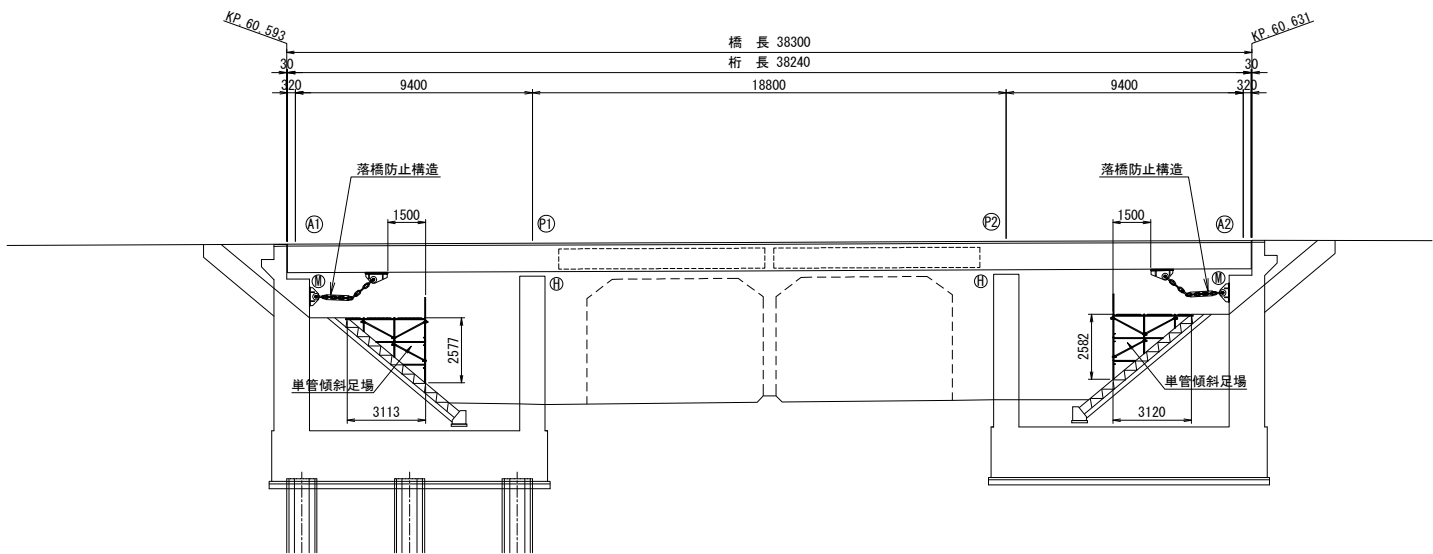
平面図



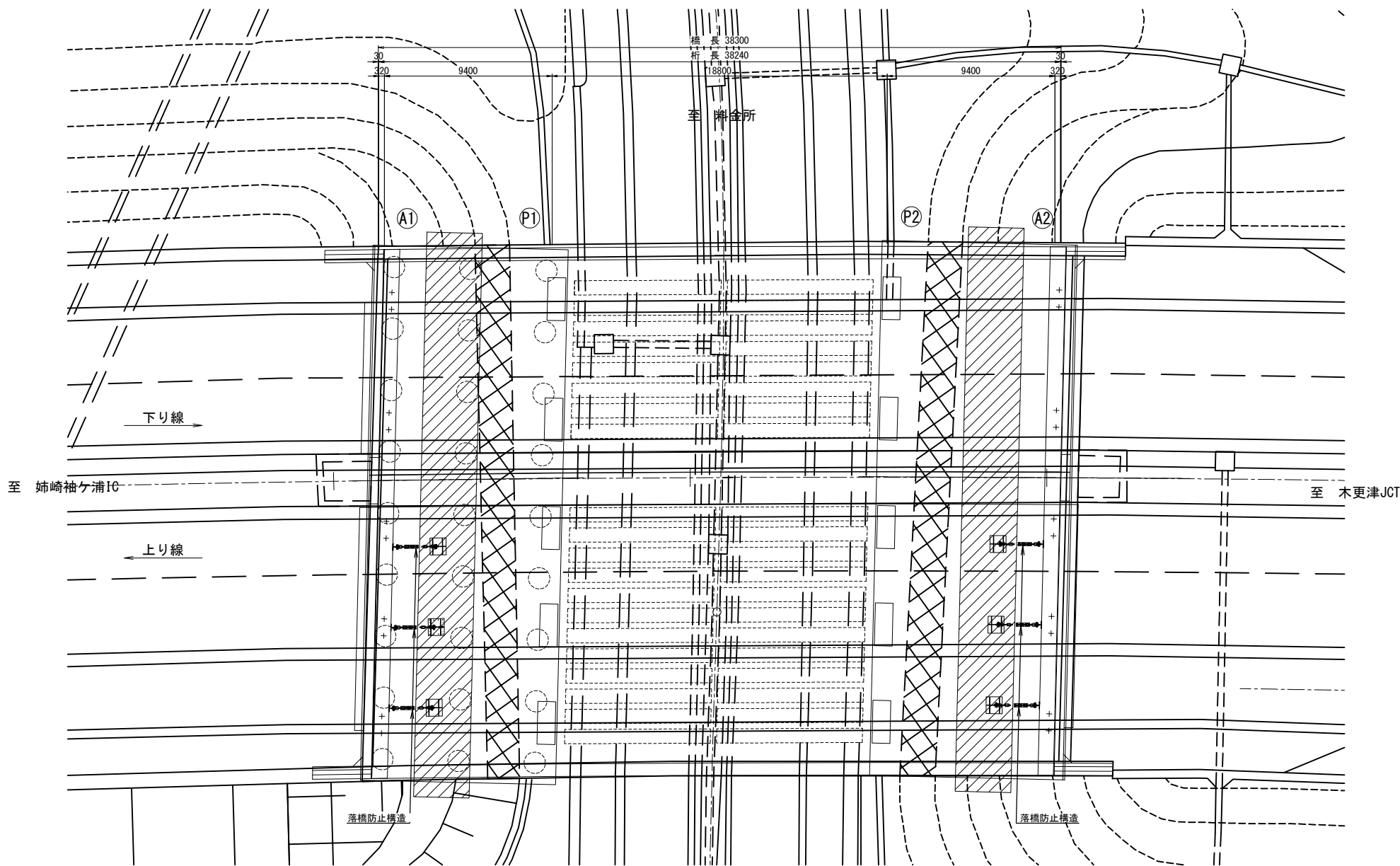
注記 1. 本図は、本橋において必要となる工種の概要を示すものであり、同時に施工することを示唆するものではない。

館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事				
図面の種類	笹子橋(上り線) 足場工図(参考図)			
縮 尺	図 示	図面番号	/	
設計会社名	株式会社 建設技術研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所			

側面図 S=1:500



平面図



落橋防止システム施工手順

STEP1 足場工設置



STEP2 落橋防止システム施工



STEP4 足場工撤去

主要重機

- STEP1
[足場工]: 人力施工
・単管傾斜足場
- STEP2
[落橋防止構造設置工]: 緩衝機能付きチェーン設置工
・4t吊搭載型トラッククレーン
※資機材は橋面より搬出入
- STEP3
[足場工]: 人力施工
・単管傾斜足場

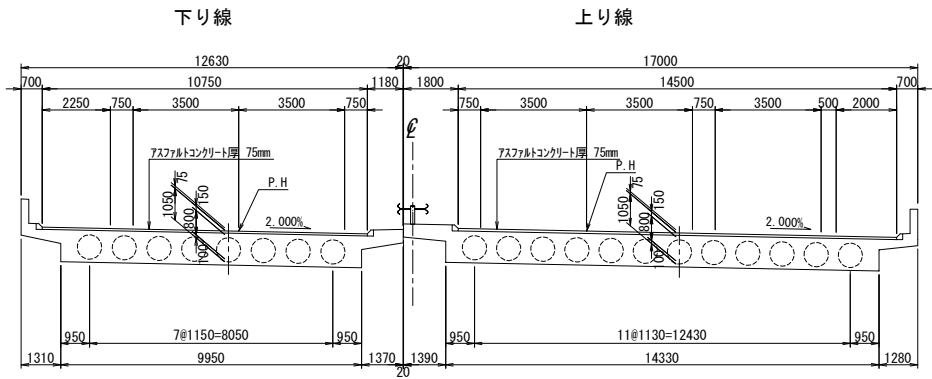
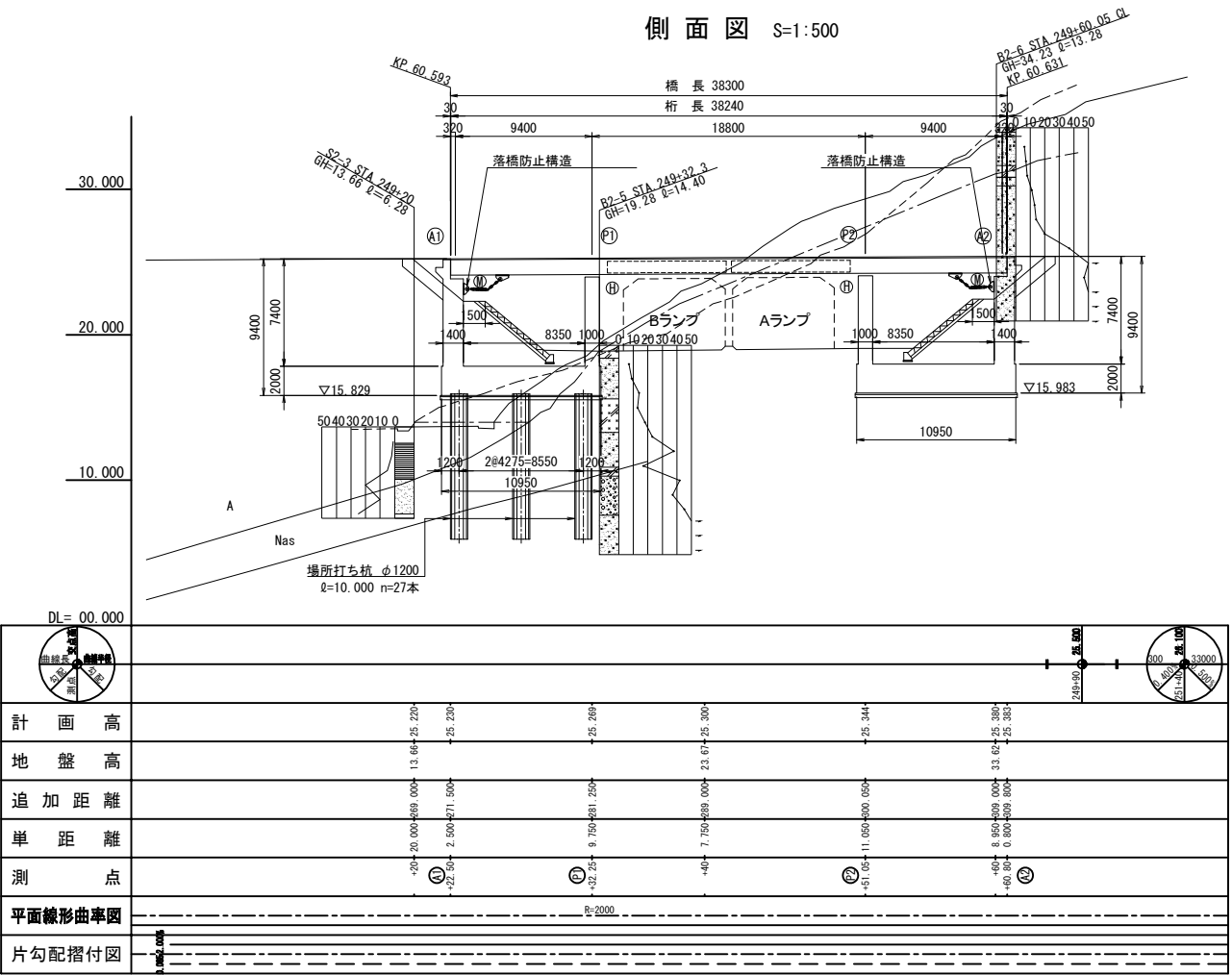
注記) 1. 本図は、本橋において必要となる工種の概要を示すものであり、同時に施工することを示唆するものではない。

館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	笹子橋(上り線)		
	施工概要図(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

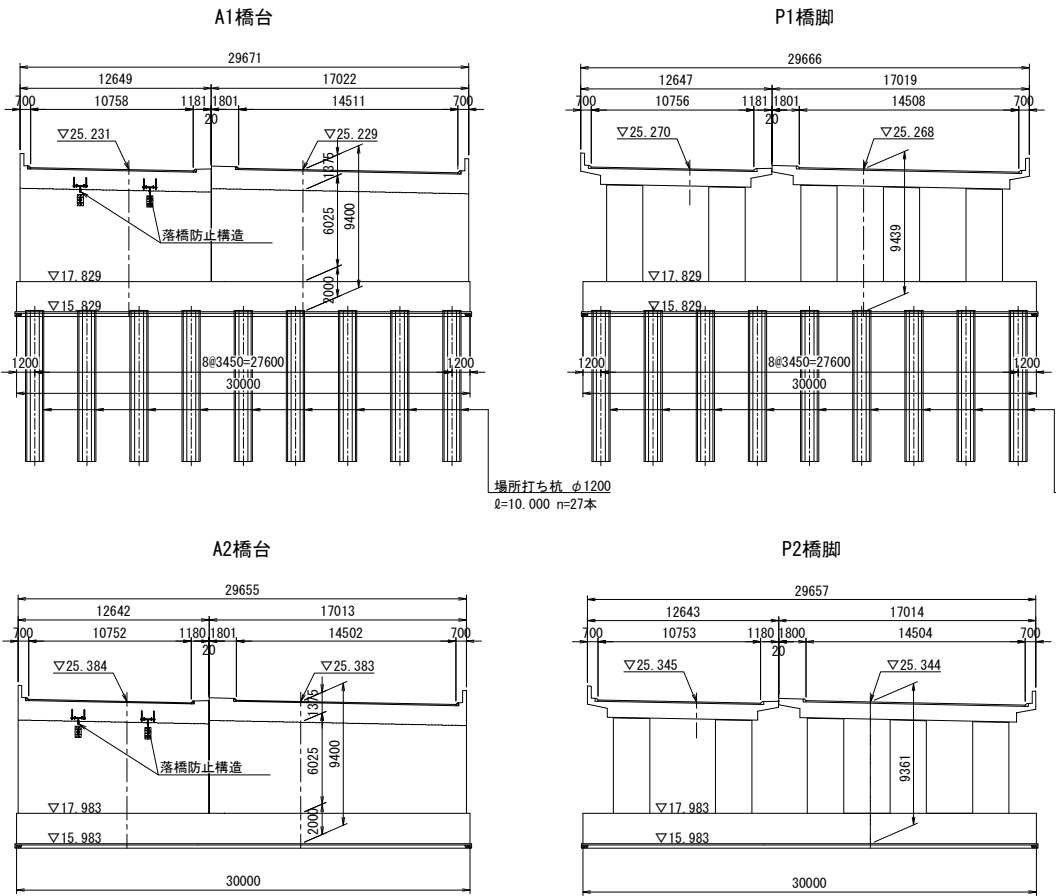
笹子橋(下り線) 耐震補強一般図

側面図 S=1:500

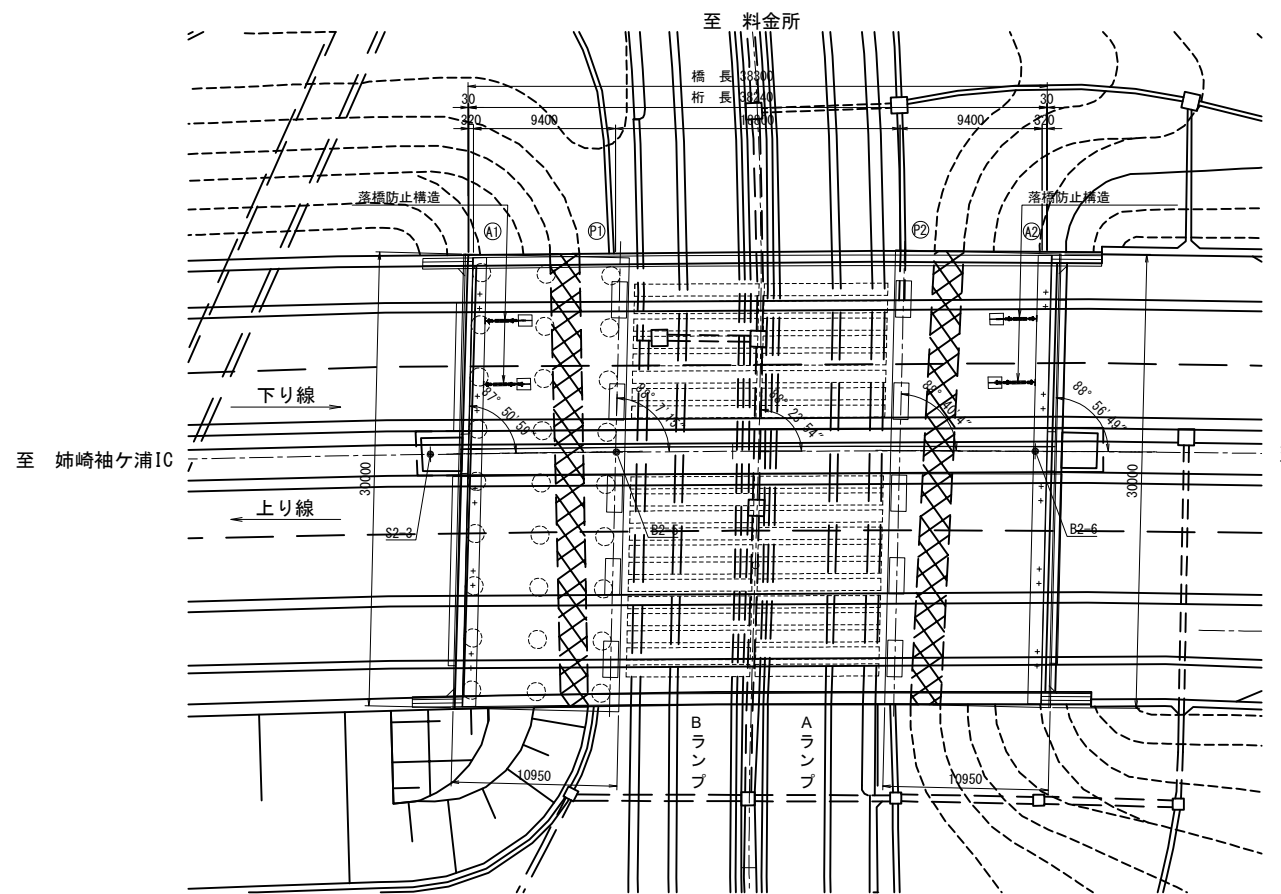
上部工標準断面図 S=1:250



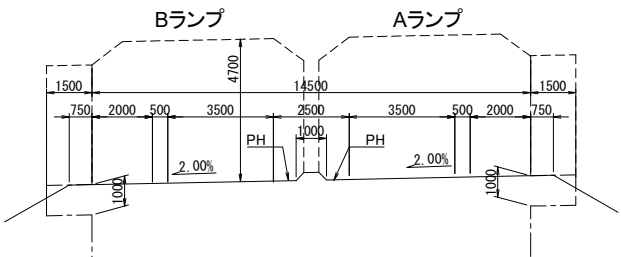
下部工正面図 S=1:500



平面図 S=1:500



交差道路断面図 S=1:250



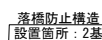
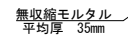
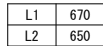
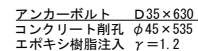
建設時設計条件

橋長	上り線	38.300m
	下り線	38.300m
支間長	上り線	9.400m + 18.800m + 9.400m
	下り線	9.400m + 18.800m + 9.400m
全幅員	上り線	17.000m
	下り線	12.630m
有効幅員	上り線	14.500m
	下り線	10.750m
上部工形式	上り線	RC3径間連続中空床版
	下り線	RC3径間連続中空床版
下部工形式	上り線	ラーメン式橋台2基、三柱式橋脚2基
	下り線	ラーメン式橋台2基、二柱式橋脚2基
支承形式	上り線	BP-A支承 (A1, A2), メナーゼヒンジ支承 (P1, P2)
	下り線	BP-A支承 (A1, A2), メナーゼヒンジ支承 (P1, P2)
活荷重	TL-20, TT-43	
完成年月日	1995年(平成7年)12月	
設計基準	S53道路橋示方書, S55道路橋示方書 設計要領第二集(日本道路公社)	
設計水平震度	kh=0.20	
使用材料	コンクリート	$\sigma_{ck}=240\text{kg/cm}^2$ (上部工及び下部工)
	鉄筋	S035 (上部工及び下部工)

今回耐震補強設計条件

設計基準	R6設計要領 第二集 橋梁保全編 H24道路橋示方書・同解説 IV 下部構造編 H24道路橋示方書・同解説 V 耐震設計編	
使用材料	コンクリート	—
	鉄筋	—
補強内容	橋脚	—
	上部工	落橋防止構造: 緩衝機能付きチェーン

館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	笹子橋(下り線) 耐震補強一般図		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		



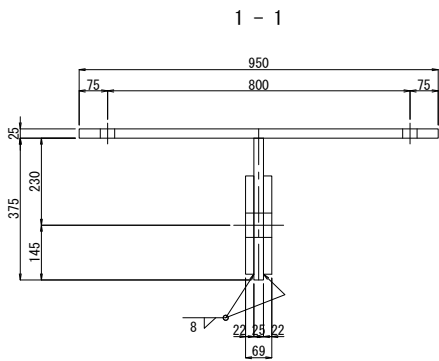
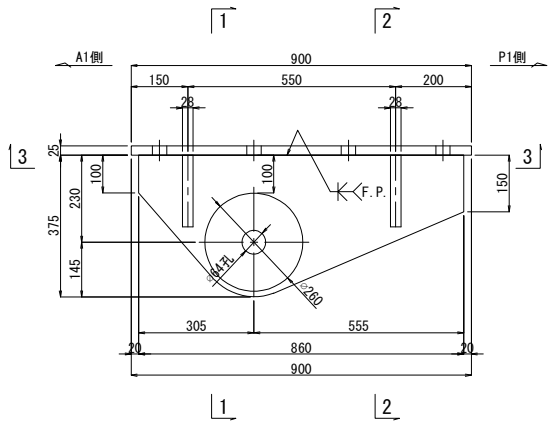
- 注記)
1. 図中詳細寸法は、足場架設後現地実測の上決定のこと。
 2. 上下部工側は鉄筋探査等を行い、既設鉄筋を切断しないように留意すること。
 3. 既設鉄筋の部材取付面は、下地処理を行うこと。
 4. アンカーボルト定着長は既設鉄筋より15D(D:アンカー径)以上を確保すること。
 5. 無収縮モルタル及び樹脂バ材材の施工前にチッピングによる表面処理を行うこと。

死荷重反力	954kN
設計水平力	1431kN
1本当たりの設計地震力	716kN
1本当たりの設計引張力	738kN
設計移動量	350mm

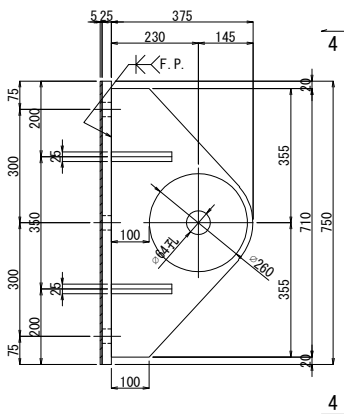
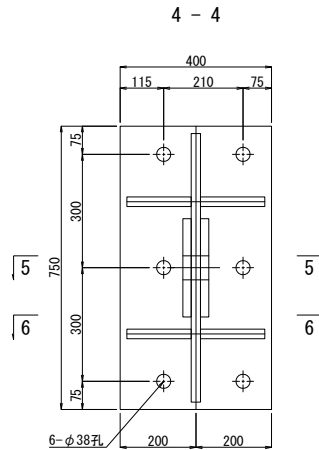
館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	笠子橋(下り線)		
	A1橋台 落橋防止構造 O1(T) 構造図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

[取付概要図]

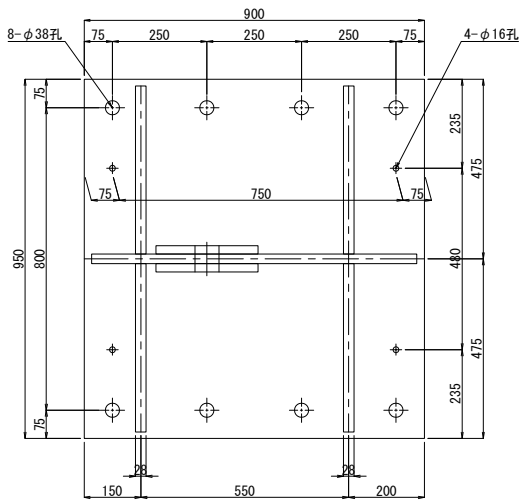
上部エブラケット詳細図 S=1:20



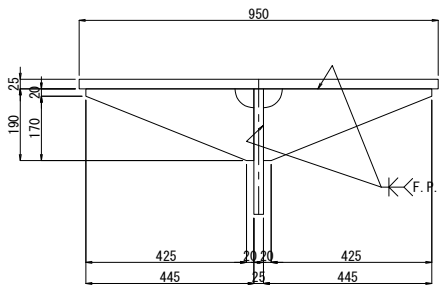
下部エブラケット詳細図 S=1:20



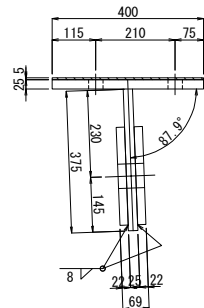
3 - 3



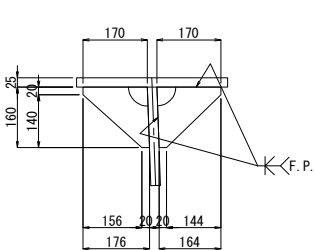
2 - 2



5 - 5



6 - 6



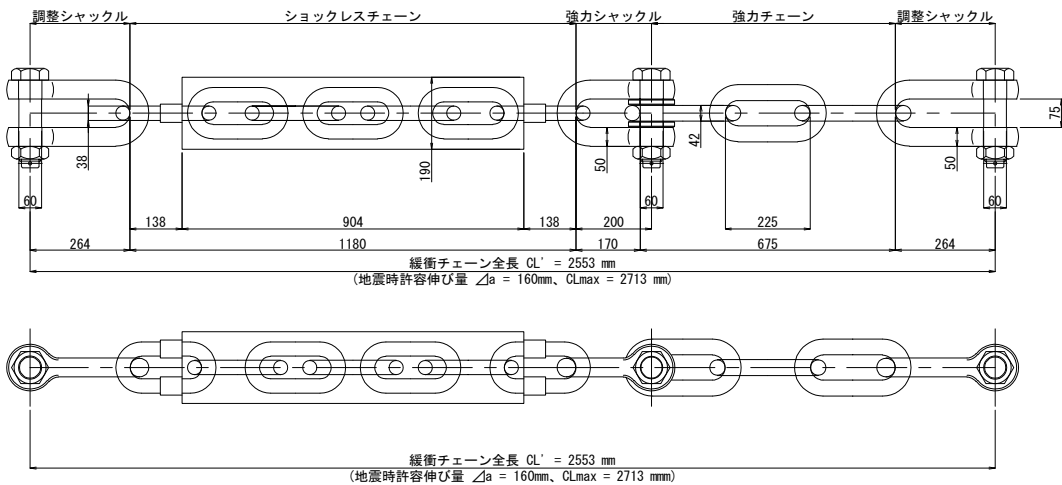
材料1基当り (全2基)

- 1-Base PL 950×25×900 (SM490A)
- 1-Top PL 375×25×860 (SM490A)
- 2-PL φ260×22 (SM490A)
- 4-Rib PL 190×28×445 (SM490B)
- 4-コンクリートアンカー M12 (SS400相当品, 別仕様)

材料1基当り (全2基)

- 1-Base PL 400×25×750 (SM490A)
- 1-Top PL 375×25×710 (SM490A)
- 2-PL φ260×22 (SM490A)
- 2-Rib PL 160×25×176 (SM490A)
- 2-Rib PL 160×25×170 (SM490A)

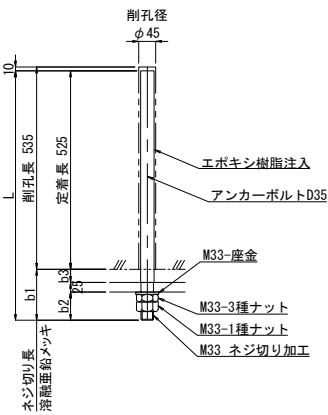
緩衝チェーン 5型 3リンク (参考図) S=1:20



材料表 (落橋防止構造1箇所当たり)

名称	規格	単位	数量	摘要
緩衝機能付きチェーン	825kN	本	1	SCM420H、SCM435又はSCM435H
ボルト	φ60	個	3	
ナット	M60	個	3	
座金	M60	枚	6	
割ピン	φ10	個	3	

上部アンカーボルト詳細図 S=1:20



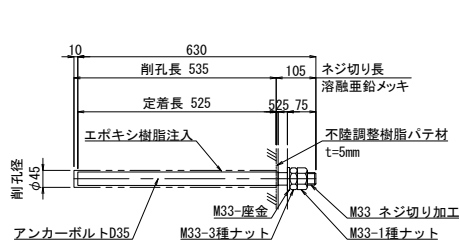
注：アンカーボルトはネジ切り部にのみ溶融亜鉛メッキを施す。

材料1基当り (全2基)

- N-Anc Bolt D35×L (SD345)
- 8-Nut M33 1種ナット
- 8-Nut M33 3種ナット
- 8-Washer M33 座金

L	b1	b2	b3	N
670	145	77	43	4
650	125	73	27	4

下部アンカーボルト詳細図 S=1:20

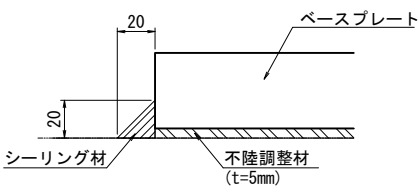


注：アンカーボルトはネジ切り部にのみ溶融亜鉛メッキを施す。

材料1基当り (全2基)

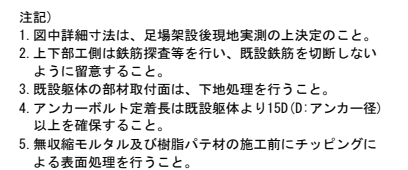
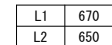
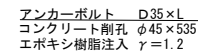
- 6-Anc Bolt D35×630 (SD345)
- 6-Nut M33 1種ナット
- 6-Nut M33 3種ナット
- 6-Washer M33 座金

シーリング詳細図 S=1:5



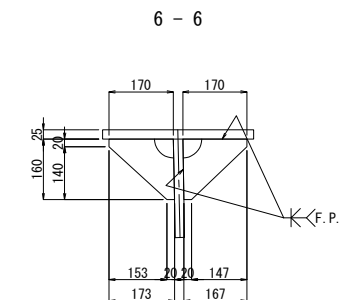
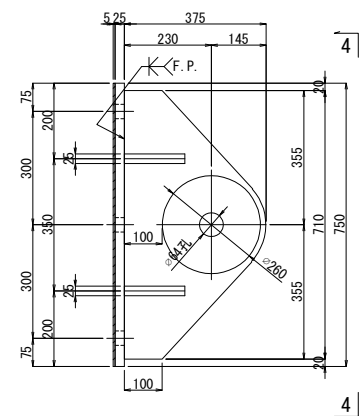
- 注記)
- ブラケットの製作は、現地調査の上、最終決定のこと。
 - 特記なきスカーラップはR50とする。
 - 特記なき材質はSS400とする。
 - 上下部工側ブラケット及びアンカーボルトネジ切部を下記の通りの溶融亜鉛メッキとする。
 - 「F.P.」の表記のある箇所は完全溶込み溶接を用いる。
 - 既設躯体の部材取付面は、下地処理を行うこと。

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事				
図面の種類	笹子橋(下り線)			
	A1橋台 落橋防止構造 C1(T) 構造図(その2)			
縮 尺	図 示	図面番号	/	
設計会社名	株式会社 建設技術研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所			



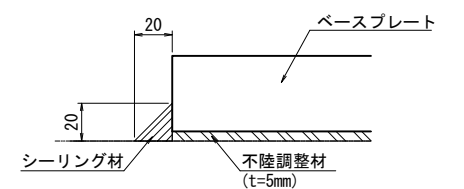
館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事				
図面の種類		笹子橋(下り線) A2橋台 橋端防止構造 C1(U) 構造図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	/	
設計会社名	株式会社 建設技術研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所			

下部エブラケット詳細図 S=1:20



1-Base PL 400×25×750 (SM490A)
1-Top PL 375×25×710 (SM490A)
2-PL $\phi 260 \times 22$ (SM490A)
2-Rib PL 160×25×173 (SM490A)
2-Rib PL 160×25×170 (SM490A)

シーリング詳細図 S=1:5



注記)

1. プラケットの製作は、現地調査の上、最終決定のこと。
2. 特記なきスカーラップはR50とする。
3. 特記なき材質はSS400とする。
4. 上下部工側プラケット及びアンカーボルトネジ切部を下記の通りの溶融亜鉛メッキとする。

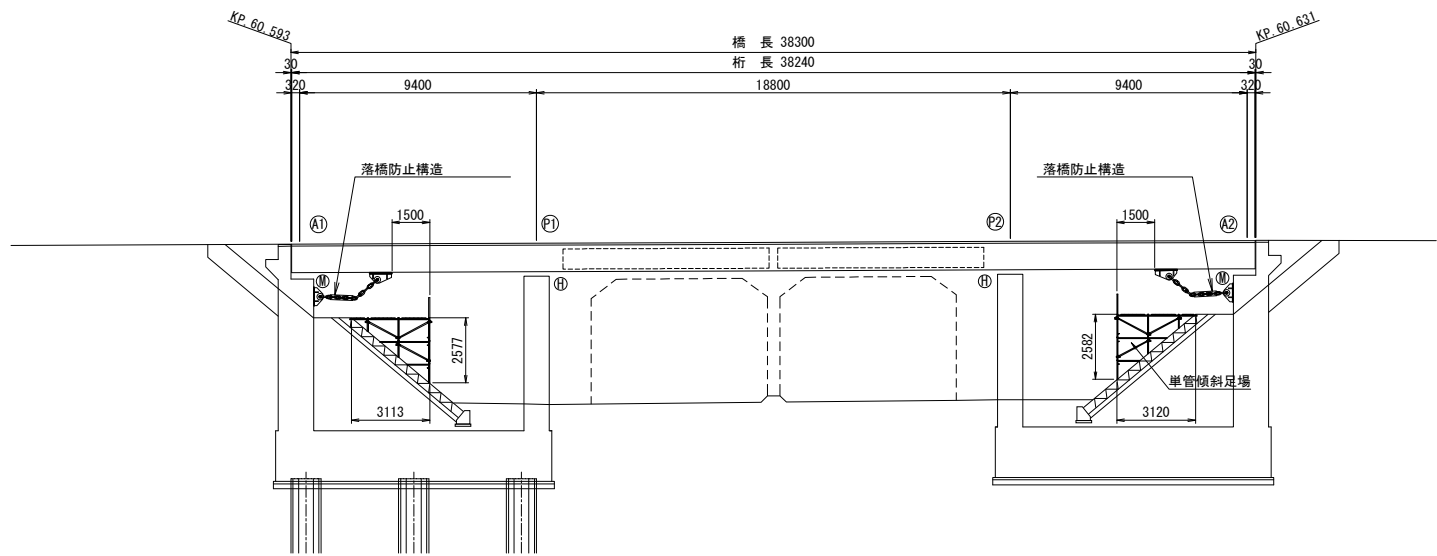
HDZ177	鋼板
HDZ149	アンカーボルト、ナット、ワッシャー

5. 「F.P.」の表記のあひ箇所では完全溶込型溶接を用いる。
6. 既設躯体の部材取付は、下地処理を行うこと。

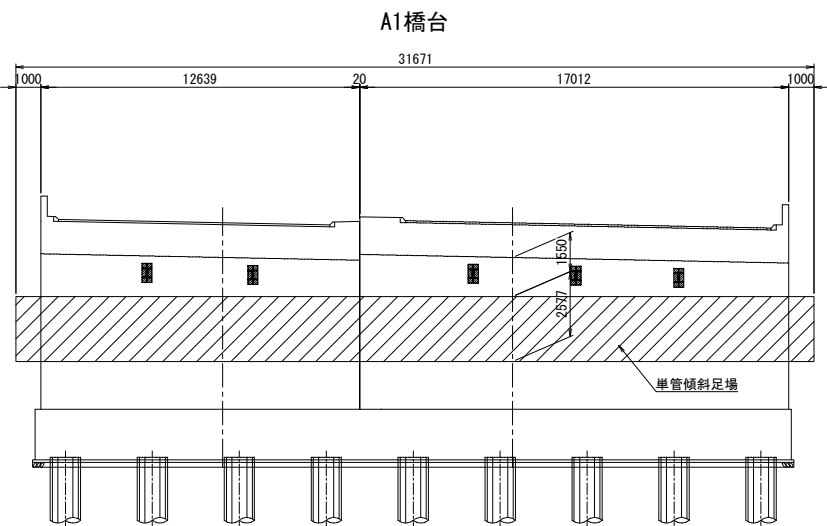
L	b1	b2	b3	N
670	145	77	43	4
650	125	73	27	4

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釦子橋(下り線) A2橋台 落橋防止構造 C1(Ⅱ) 構造図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

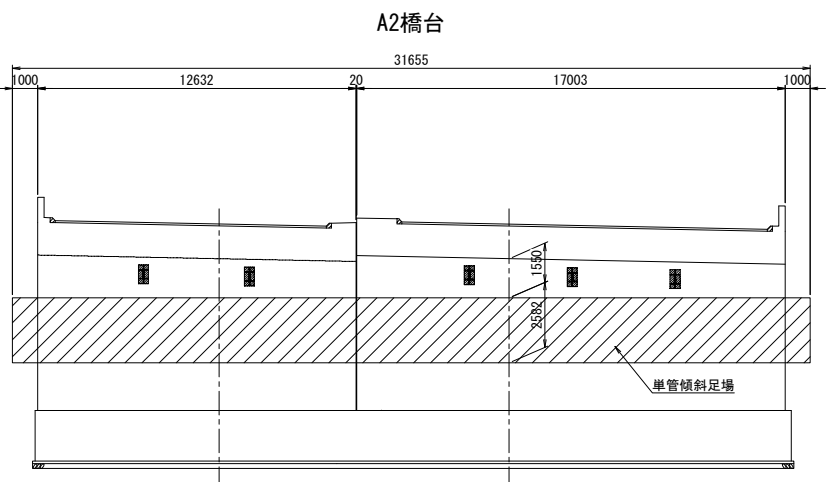
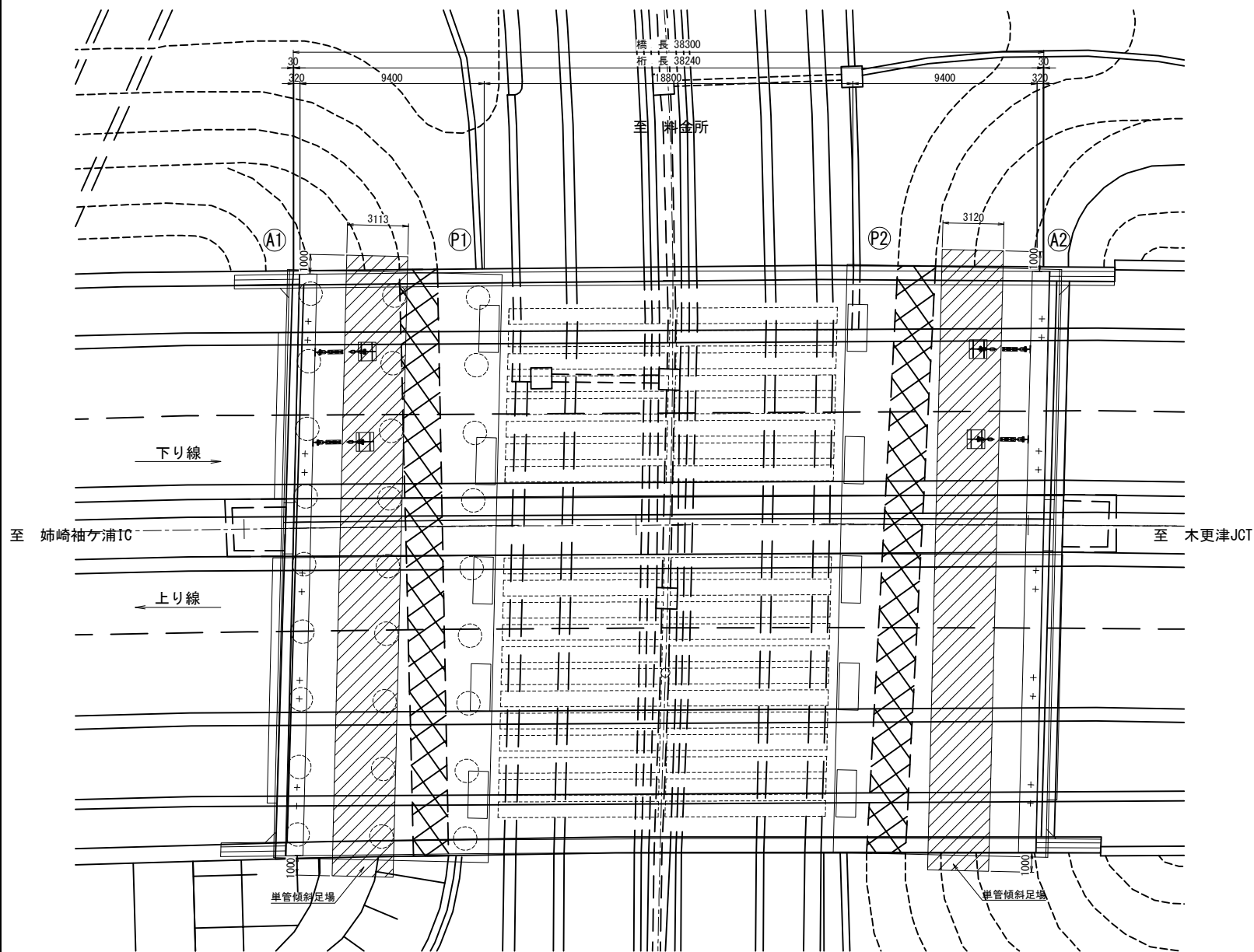
側面図



正面図



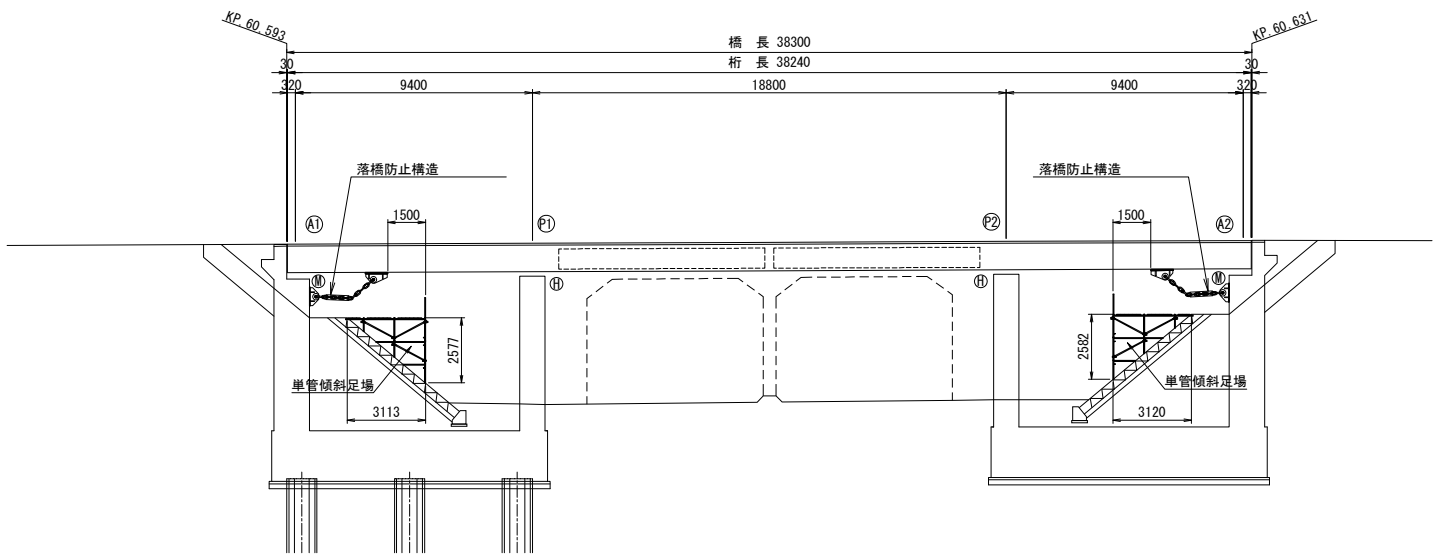
平面図



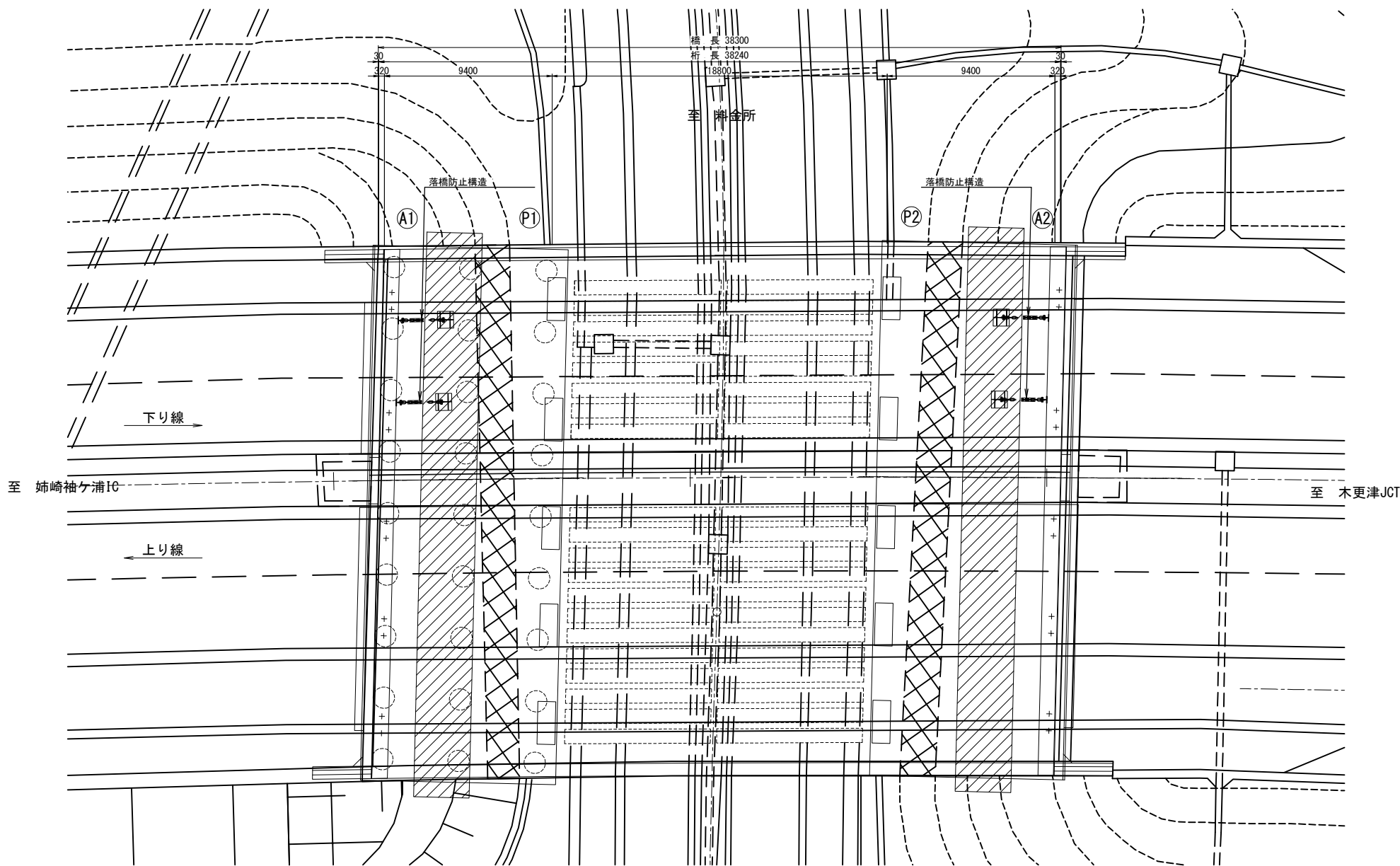
注記 1. 本図は、本橋において必要となる工種の概要を示すものであり、同時に施工することを示唆するものではない。

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事				
図面の種類	笹子橋(下り線) 足場工図(参考図)			
	縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所			

側面図 S=1:500



平面図



落橋防止システム施工手順

STEP1 足場工設置



STEP2 落橋防止システム施工



STEP4 足場工撤去

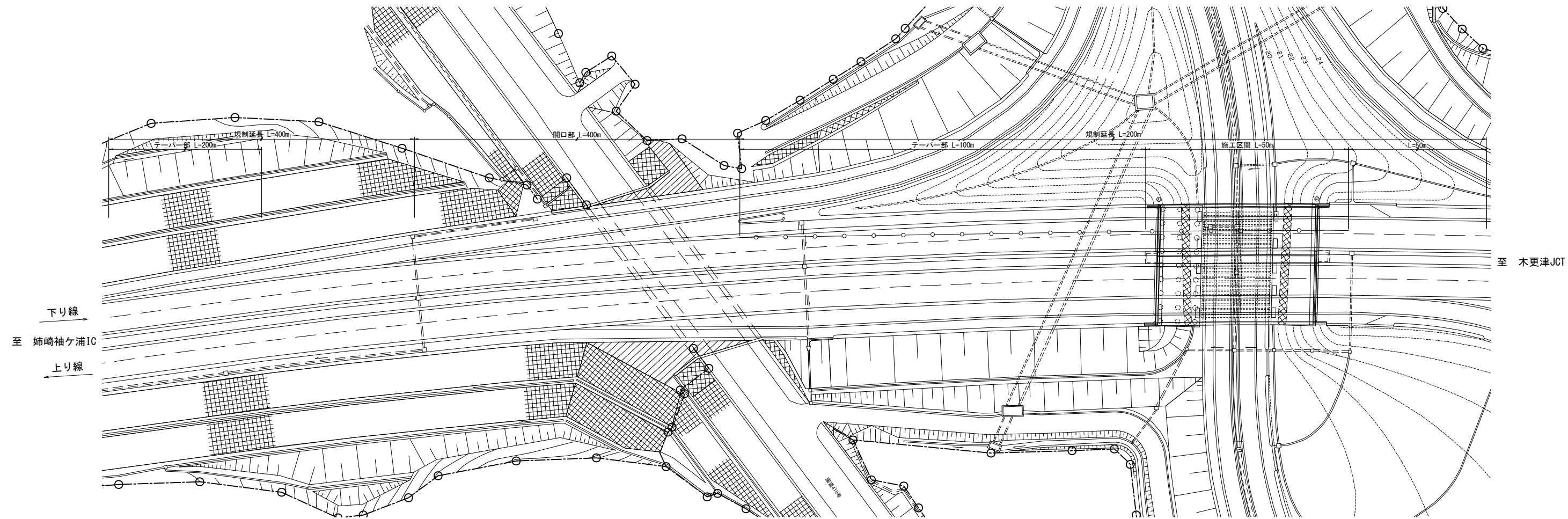
主要重機

- STEP1
[足場工]: 人力施工
・単管傾斜足場
- STEP2
[落橋防止構造設置工]: 緩衝機能付きチェーン設置工
・4t吊搭載型トラッククレーン
※資機材は橋面より搬出入
- STEP3
[足場工]: 人力施工
・単管傾斜足場

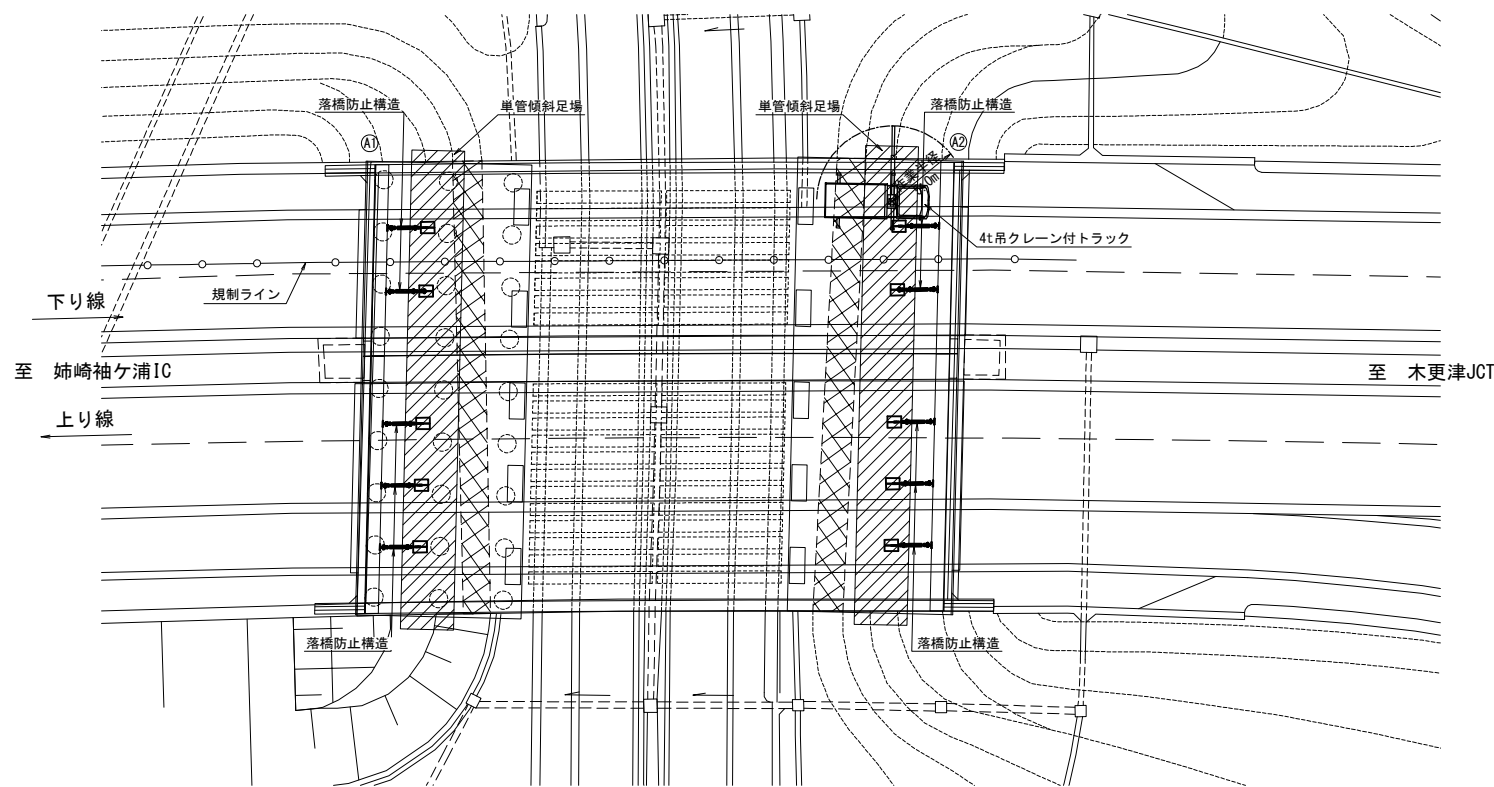
注記) 1. 本図は、本橋において必要となる工種の概要を示すものであり、同時に施工することを示唆するものではない。

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	笹子橋(下り線)		
	施工概要図(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

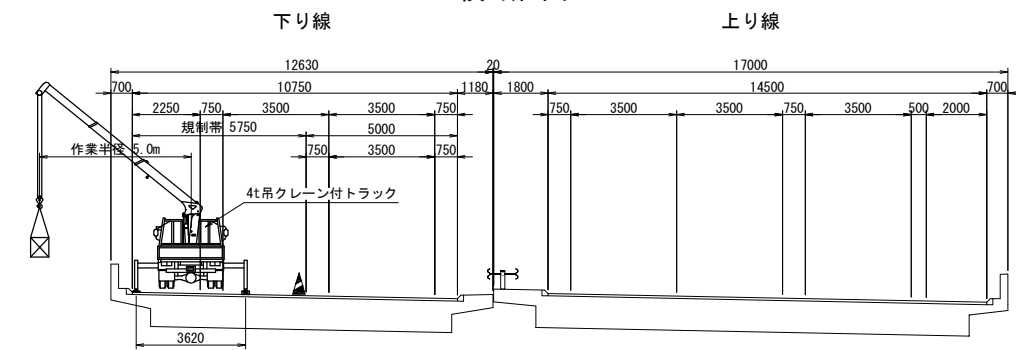
平面図 S=1:1000



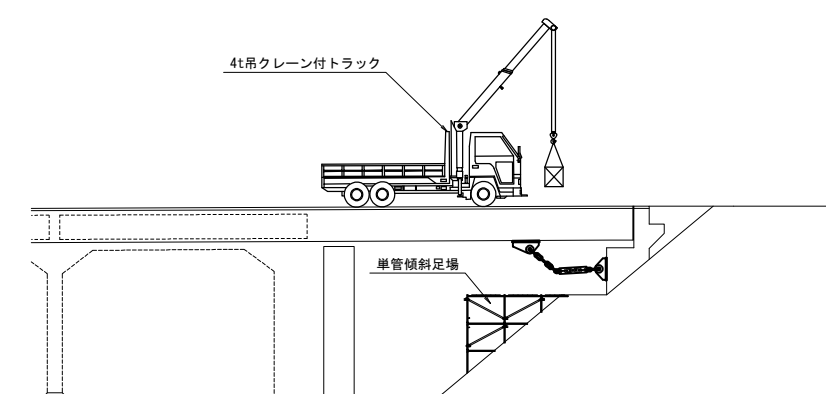
本線上施工機械配置図 S=1:500



横断図 S=1:250



側面図 S=1:250



吉河ユニック URG343A アウトリガ最大張出3.62m 定格総荷重 (t)	
ブーム	3段ブーム
作業半径 (m)	
4.0	1.38
4.5	1.13
5.0	0.95
5.5	0.80
6.0	0.70
6.5	0.60
7.0	0.53
7.51	0.48

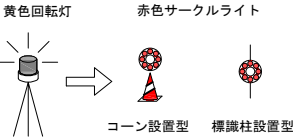
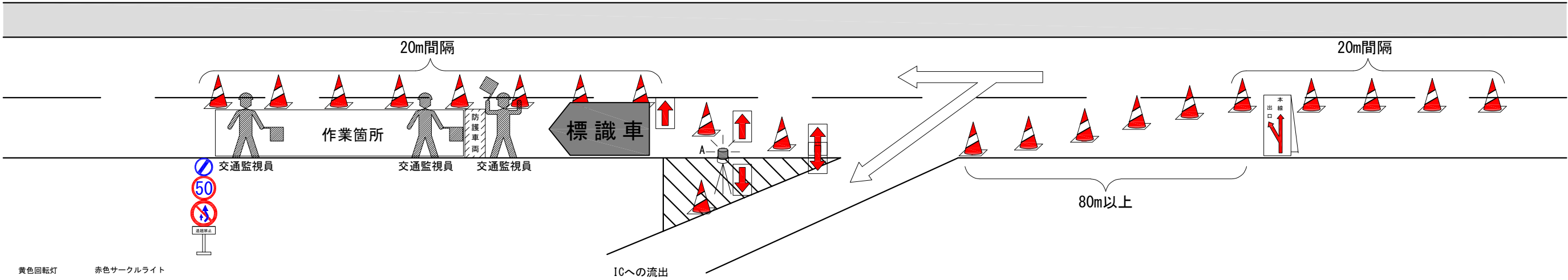
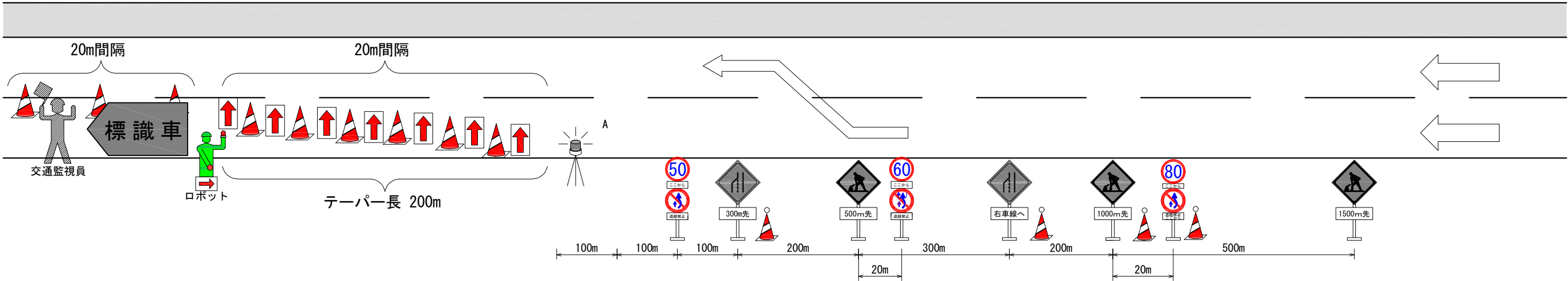
4t吊搭載型トラッククレーン
<資材搬入時>
資材重量 : 0.27t
フック重量 : 0.03t
吊重量 : 0.30t
作業半径 : 5.0m (3段ブーム)
定格重量 : 0.95t (3段ブーム)
※最も重い資材は、
上部工ブラケット約0.27t
0.30t<0.95t・・・OK

館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
笹子橋(上下線)			
図面の種類	落橋防止資材搬入計画図(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

車線規制 A
館山自動車道 100km/h 走行一車線規制

走行車線-車線規制

車線規制 A



※Aの黄色回転灯は赤色サークルライトに代用する場合がある
※標識柱設置型は100m工事看板に設置する

- (注1) Aの回転灯は、黄色もしくは自動点滅灯とする
(注2) 2段目以降の標識車は、車載式でも可能である
(注3) ゼブラ・ドット付近の作業の場合は、開口部の距離調節する場合がある
(注4) ※1の発煙筒は設置・撤去各3本の使用を基本とする

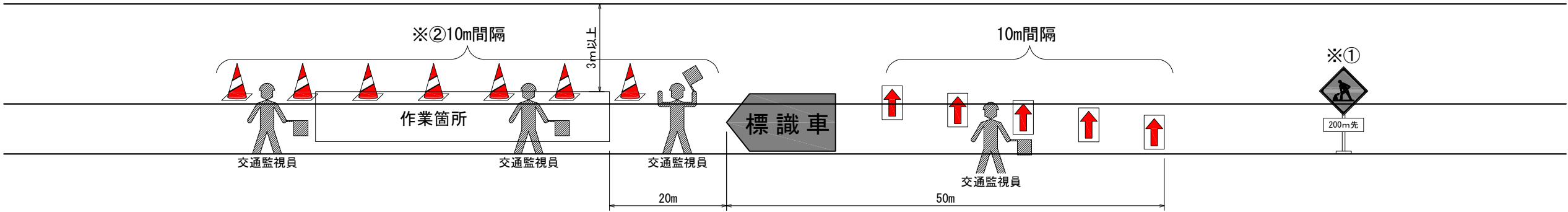
数量表

交通規制工（車線規制 A）					
規制標識（貸与品）	10 枚	標識等安全施設（回転灯）（貸与品）	2 台	交通監視員（施工箇所）	1 人
反射矢印板（貸与品）	必要数	防護車両（受注者持ち）	1 台	交通監視員（規制内巡回等）	1 人
ラバーコーン（貸与品）	必要数	発煙筒（15分もの）（受注者待ち）	6 本		
標識車（貸与品）	2 台	交通監視員（テーパ一部）	1 人		
保安ロボット（貸与品）	1 台	交通監視員（工事車両出入口）	1 人		

館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	笹子橋(上下線)		
	交通規制工	交通規制図(その1)	
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

Aランプ路肩規制

路肩規制 A



- (注1) ※①の路肩ガードレールがなければ取付不可とし省略する場合がある
(注2) ※②の施工箇所は、ランプ1/2以下の箇所にラバーコーン外側お合わせるものとする。
但し、ランプ全幅の補修を要するものは1/2の箇所にラバーコーン内側を合わせ施工する。

数量表

交通規制工（路肩規制 A）			
標識車（貸与品）	1 台	交通監視員（テーパー部）	1 名
規制標識（貸与品）	1 枚	交通監視員（工事用車両出入口）	1 名
ラバーコーン（貸与品）	必要数	交通監視員（施工箇所）	1 名
反射矢印板（貸与品）	必要数	交通監視員（規制内巡回等）	1 名

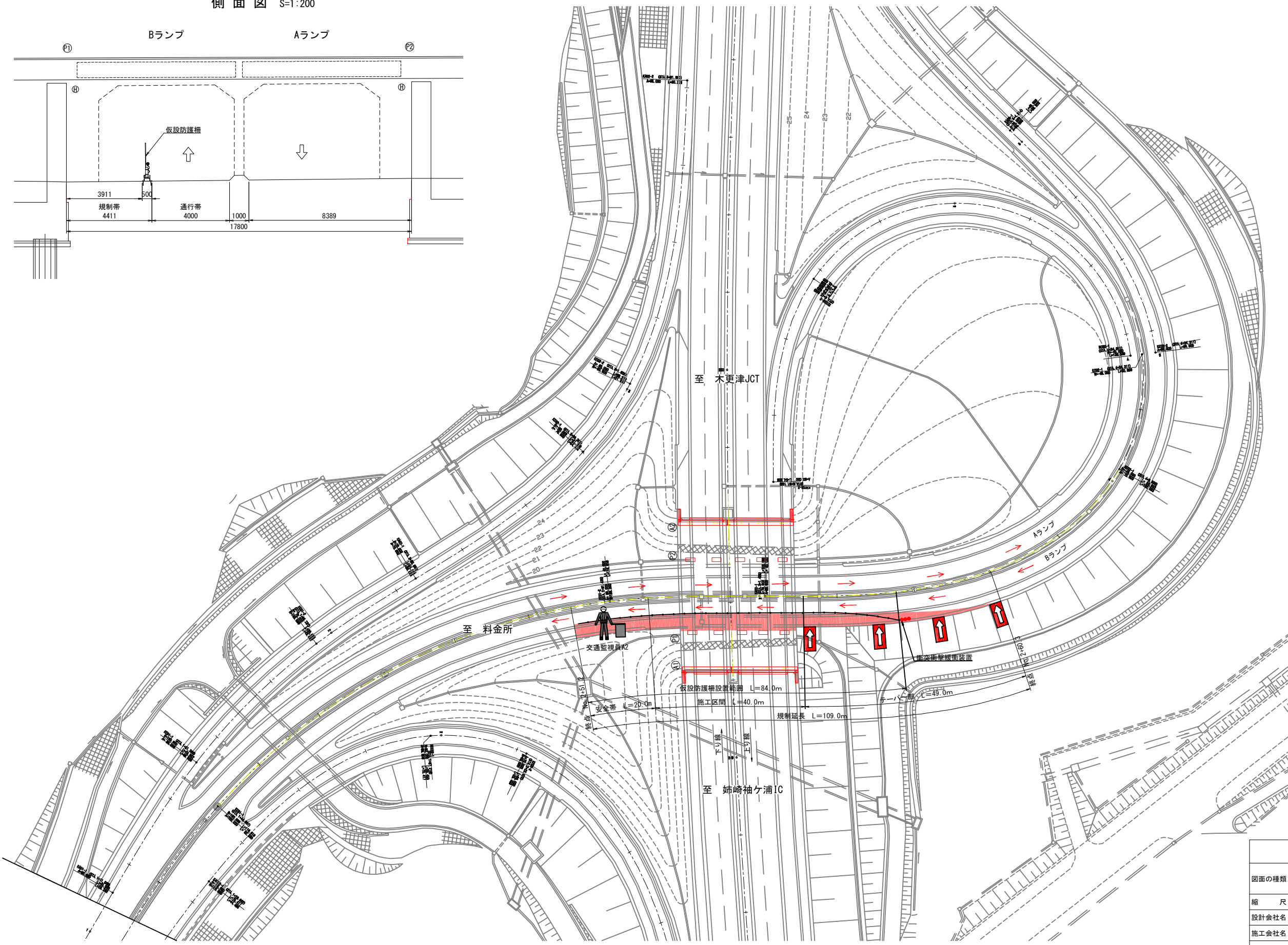
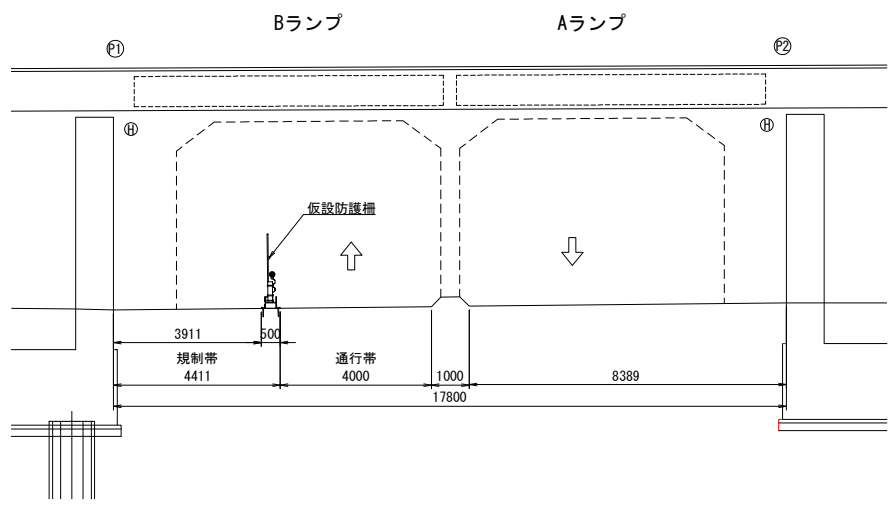
館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	笹子橋(上下線)		
	交通規制工	交通規制図(その3)	
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

笹子橋(上下線) 交通規制工 交通規制図(その4)

A1橋台施工時 Bランプ路肩規制(固定規制)

平面図 S=1:1000

側面図 S=1:200



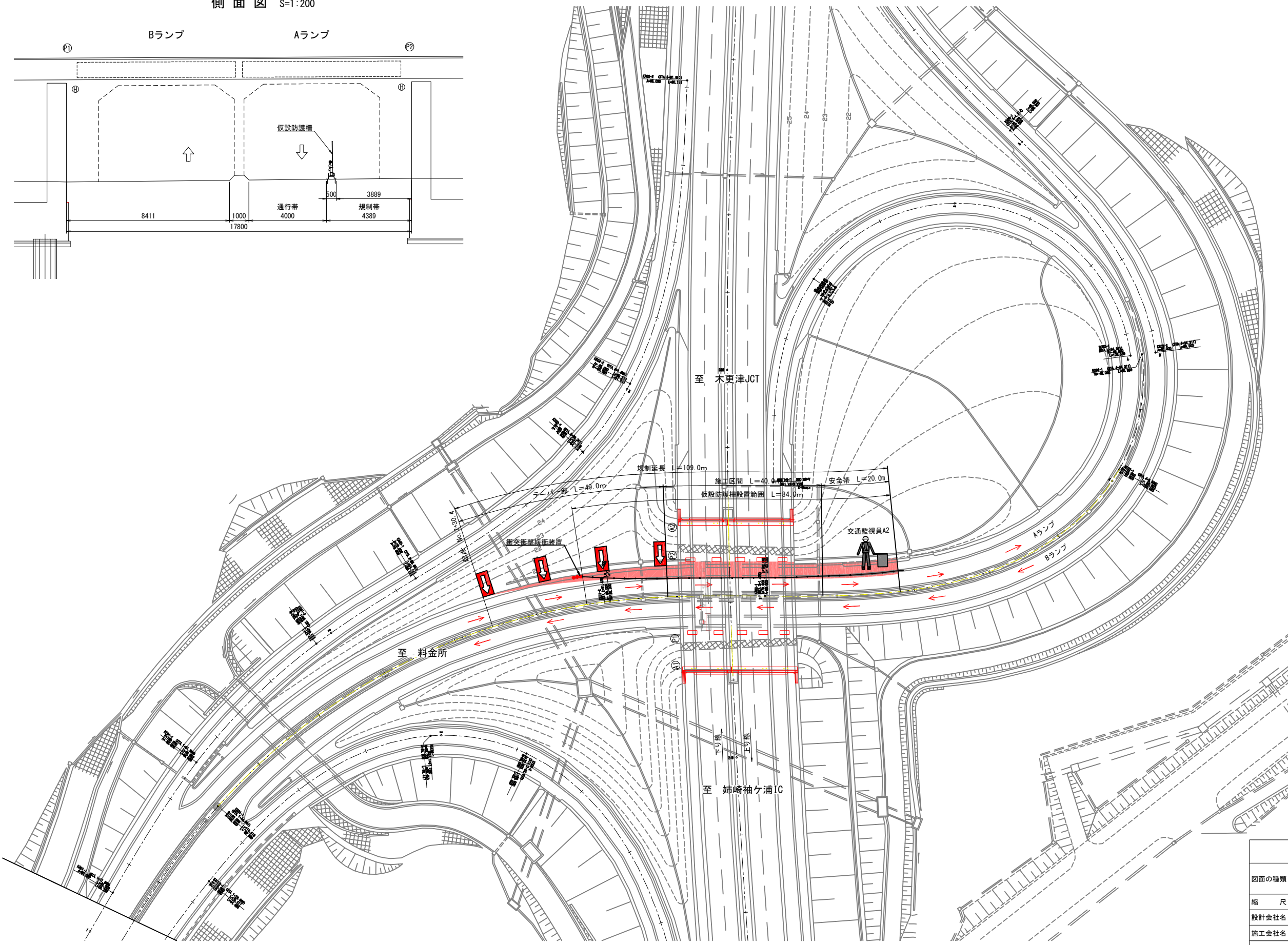
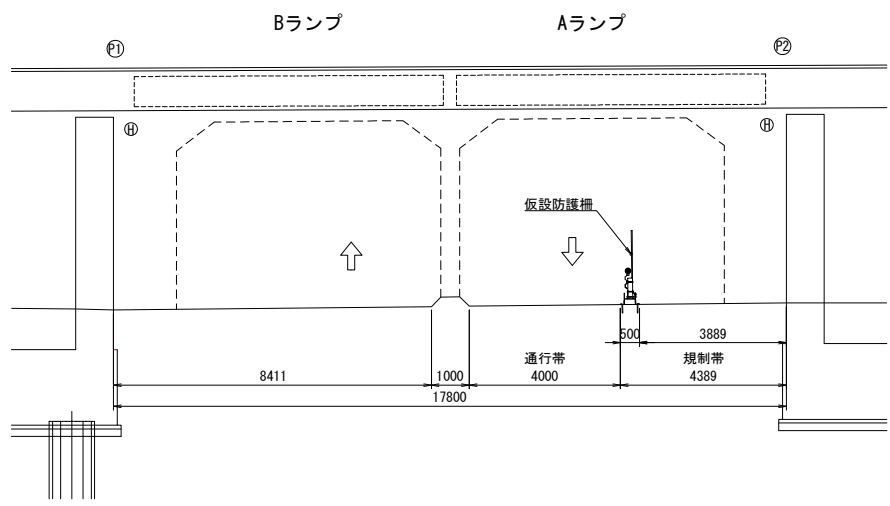
館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	笹子橋(上下線)		
	交通規制工 交通規制図(その4)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

笹子橋(上下線) 交通規制工 交通規制図(その5)

A2橋台施工時 Aランプ路肩規制(固定規制)

平面図 S=1:1000

側面図 S=1:200

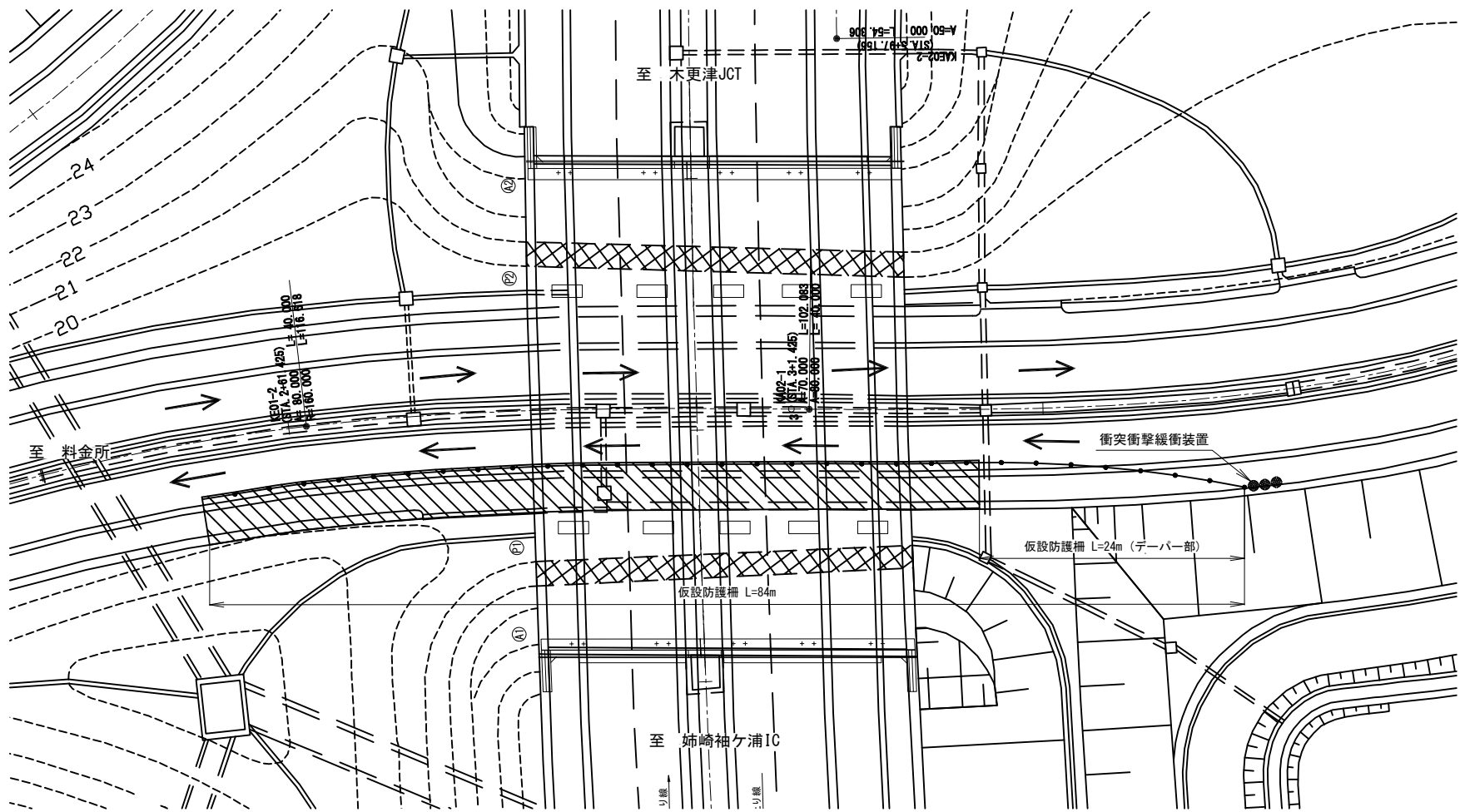


館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	笹子橋(上下線)		
	交通規制工 交通規制図(その5)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

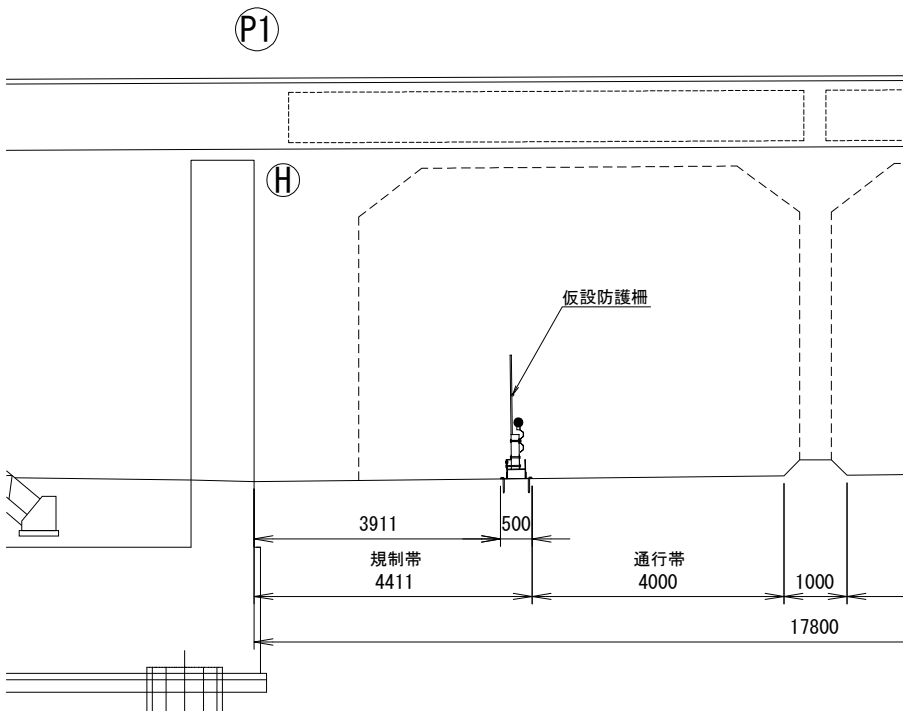
笹子橋(上下線) 仮設防護柵工D(その1)

A1橋台施工時 Bランプ路肩規制 (固定規制)

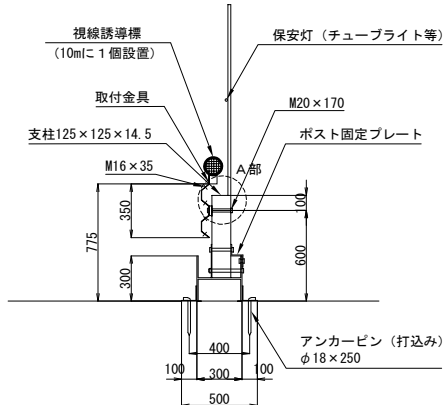
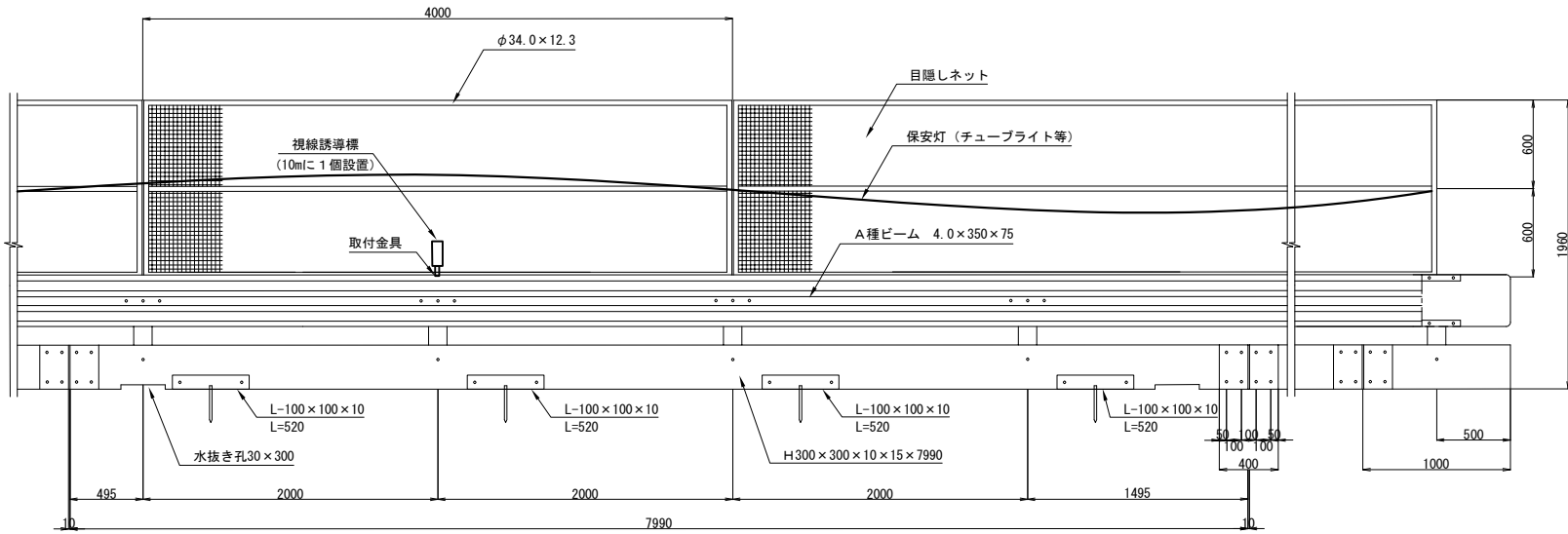
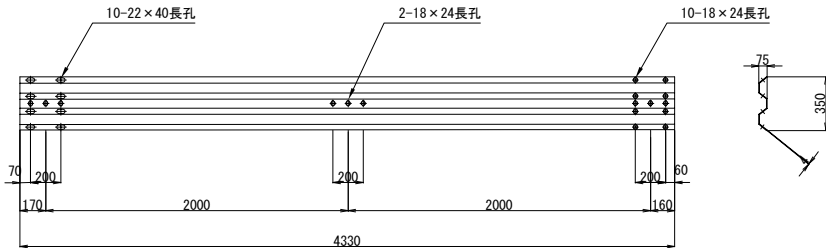
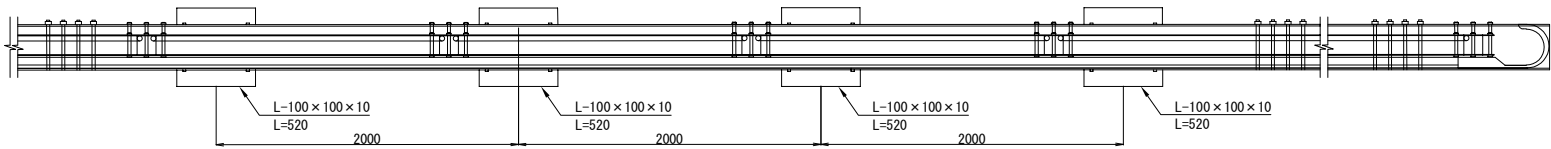
平面図 S=1:500



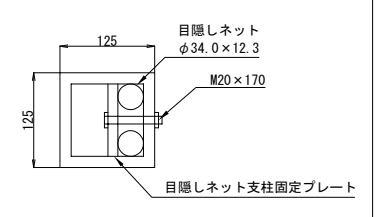
側面図 S=1:120



仮設防護柵詳細図(参考図) S=1:50



A部詳細図 S=1:10

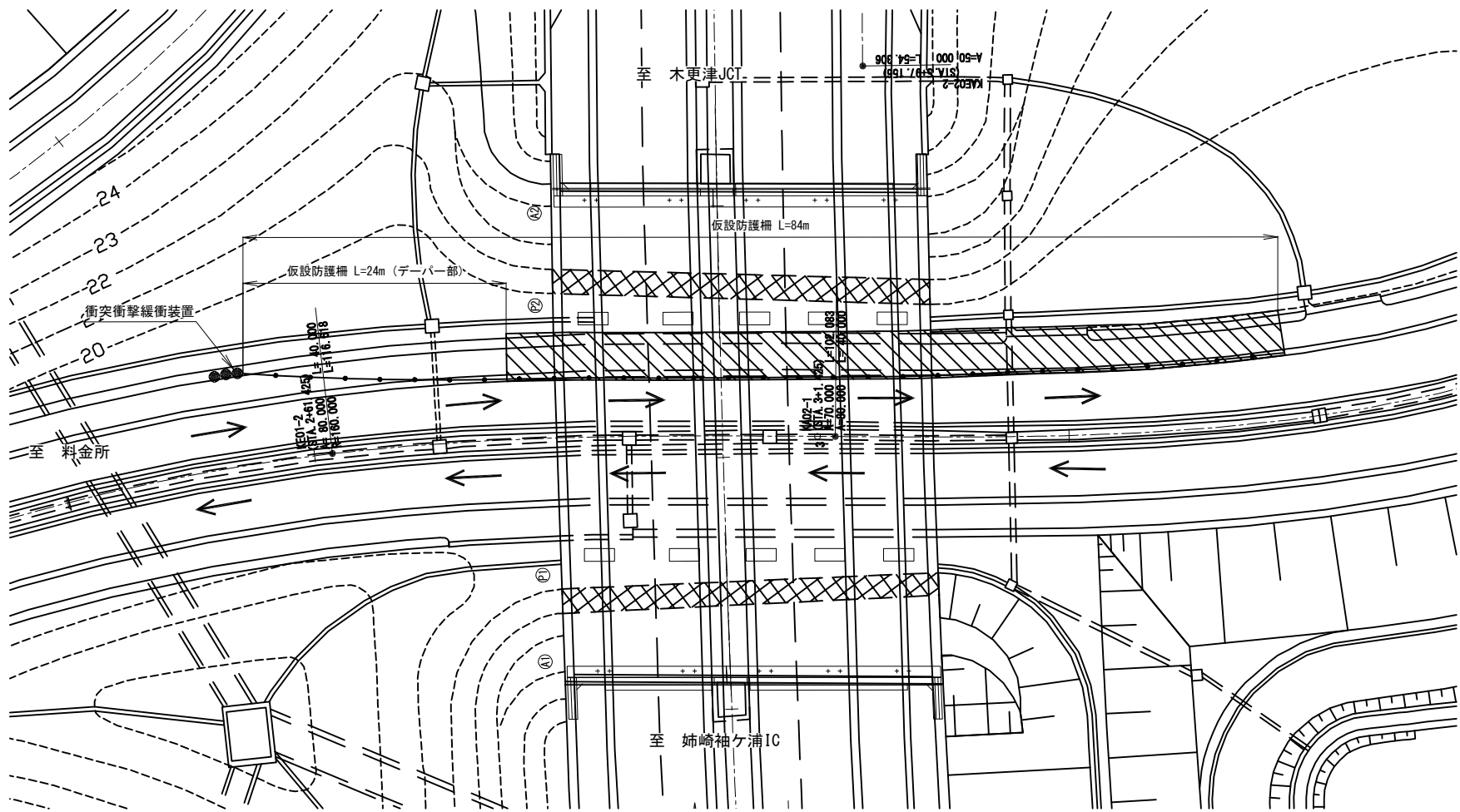


館山自動車道 大鳥居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	笹子橋(上下線) 仮設防護柵工D(その1)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		

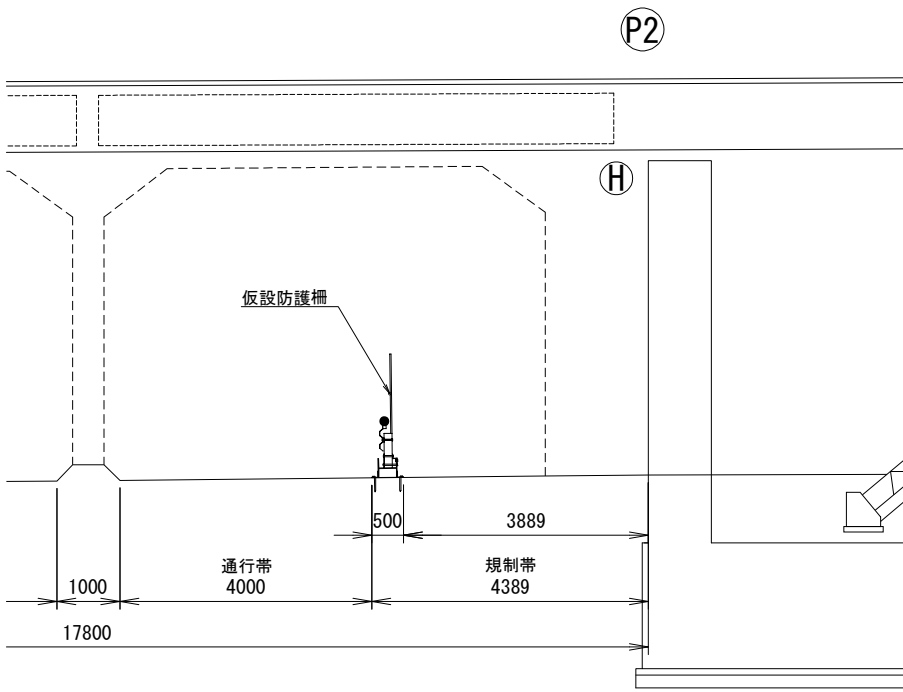
笹子橋(上下線) 仮設防護柵工D(その2)

A2橋台施工時 Aランプ路肩規制 (固定規制)

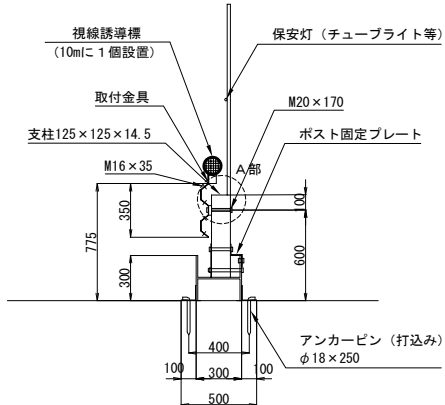
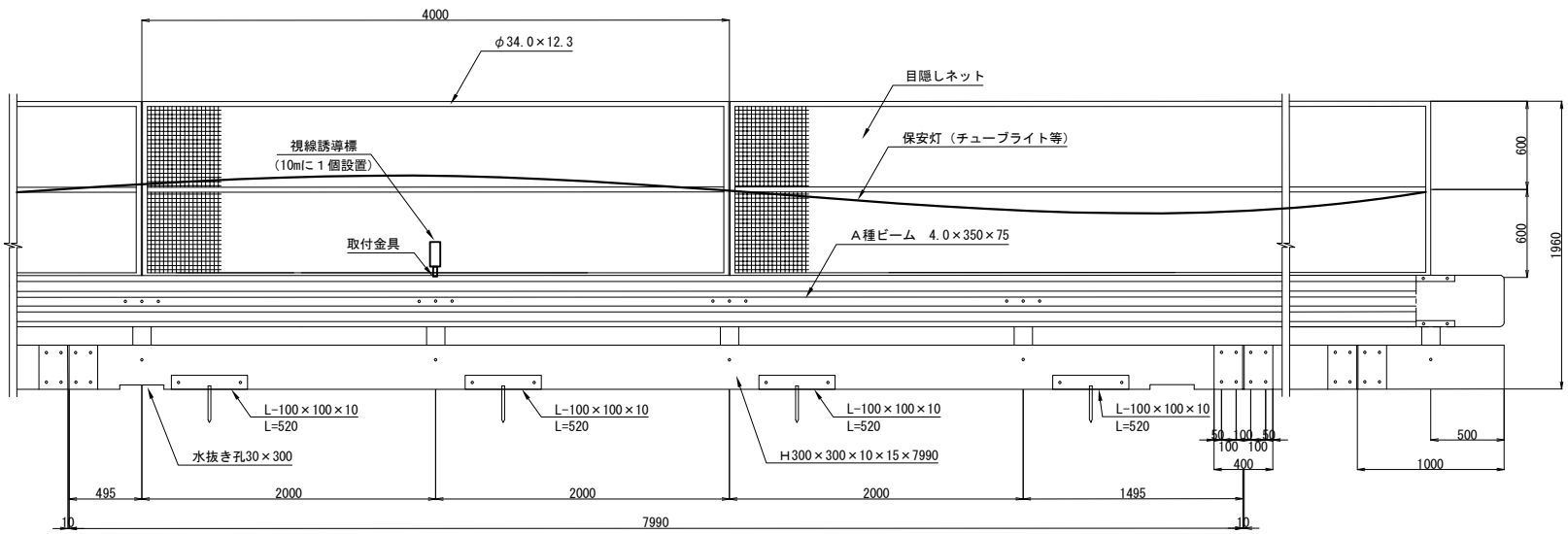
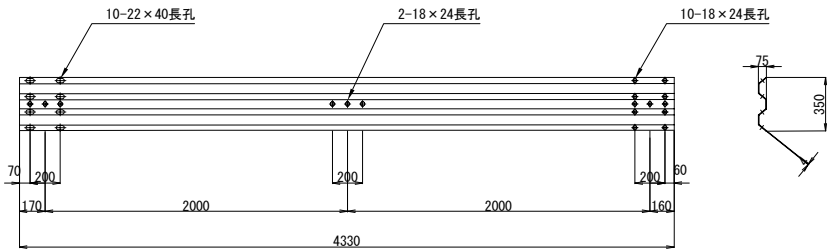
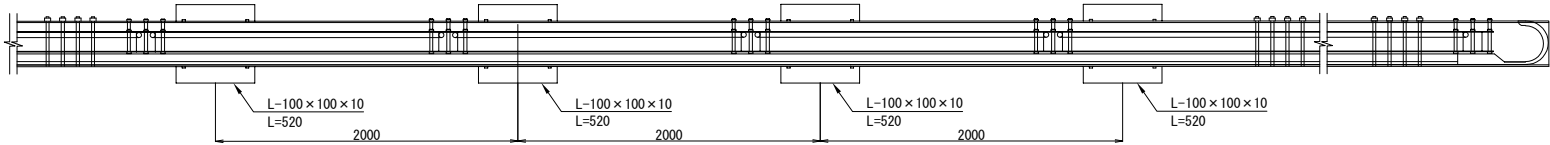
平面図 S=1:500



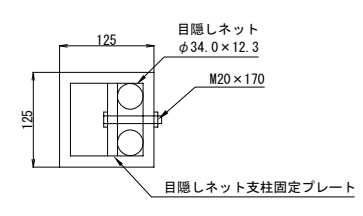
側面図 S=1:120



仮設防護柵詳細図(参考図) S=1:50



A部詳細図 S=1:10



館山自動車道 大島居高架橋耐震補強工事			
図面の種類	笹子橋(上下線) 仮設防護柵工D(その2)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	株式会社 建設技術研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市 原 管 理 事 務 所		